第５編　山根Ⅳ遺跡Ⅱ

第１章　既往の調査

これまで山根Ⅳ遺跡では、平成 19 年に長野原町教育委員会によって町道拡幅に伴う試掘調査が行われ、縄文中期後半の遺物包含層が確認されている。その後、平成 29 年 4 月 26 日から 5 月 1 日に第２次調査の横壁土地改良事業に伴う試掘調査が行われた（第 212 図１～２、第 29 表）。その結果、平安時代の鍛冶関連と推定された遺構（註１）や遺物包含層、土師器や鉄滓など平安時代の遺物が確認され、本調査が行われることとなった。

註

（１）本調査では、鍛冶関連遺構ではなく、竪穴住居跡（SI02）とした。

第 29 表　山根Ⅳ遺跡調査一覧（文献番号は序説末の参考文献参照）

番号	調査年度	調査原因 ／調査種類	調査機関	調査面積 （開発面積）	概要	備考
1	平成 19 年度	町道拡幅 ／試掘調査	長野原町教育委員会	156㎡	遺構なし （縄文）中期後半包含層	文献 19
2	平成 29 年度	町営横壁 土地改良事業 ／試掘調査	長野原町教育委員会	435㎡	（平安）竪穴住居跡	文献 36

第２章　調査の経過

山根Ⅳ遺跡の発掘調査は、平成 29 年 10 月 4 日から開始し、同年 12 月 28 日に終了した。

10 月 4 日、調査区の設定、境界柵・安全柵の設置、草刈りなどを開始する。10 月 10 日、掘削範囲の設定を行う。調査区外に排土置場を確保できないため、反転して半分ずつ調査することとなった。また、南部以外から重機の出入りができないため、北部から調査することとなった。10 月 13 日、北部の表土掘削を開始する。土地改良事業に伴う発掘調査であるため、畑の耕作土とそれ以外の土とを分けておく必要があり、畑の耕作土の掘削を行なった後、遺構確認面まで掘削を行なった。10 月 19 日、発掘調査地点の地権者と周辺の住民に発掘調査開始の挨拶に伺う。10 月 24 日、表土掘削と並行して遺構検出作業を開始する。

11 月 1 日、北部の表土掘削が終了した。11 月 30 日、北部の空中写真撮影を実施する。

12 月 1 日、北部 1 面の調査が終了した。SX03 周辺の下層に遺構が存在することが明らかになったため、これを２面とし、表土掘削・遺構掘削を開始する。また２面以外の埋め戻しを開始する。12 月 6 日、南部の表土掘削を開始する。12 月 7 日、北部２面の調査が終了した。12 月 12 日、南部の遺構検出を行い、掘削を開始する。12 月 16 日、南部の表土掘削が終了した。12 月 21 日、南部の空中写真撮影を実施する。12 月 28 日、南部の調査が終了し、発掘調査は終了した。

第３章　基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、Ａ地点（北部南壁）・Ｂ地点（南部西端）の２か所で確認した。

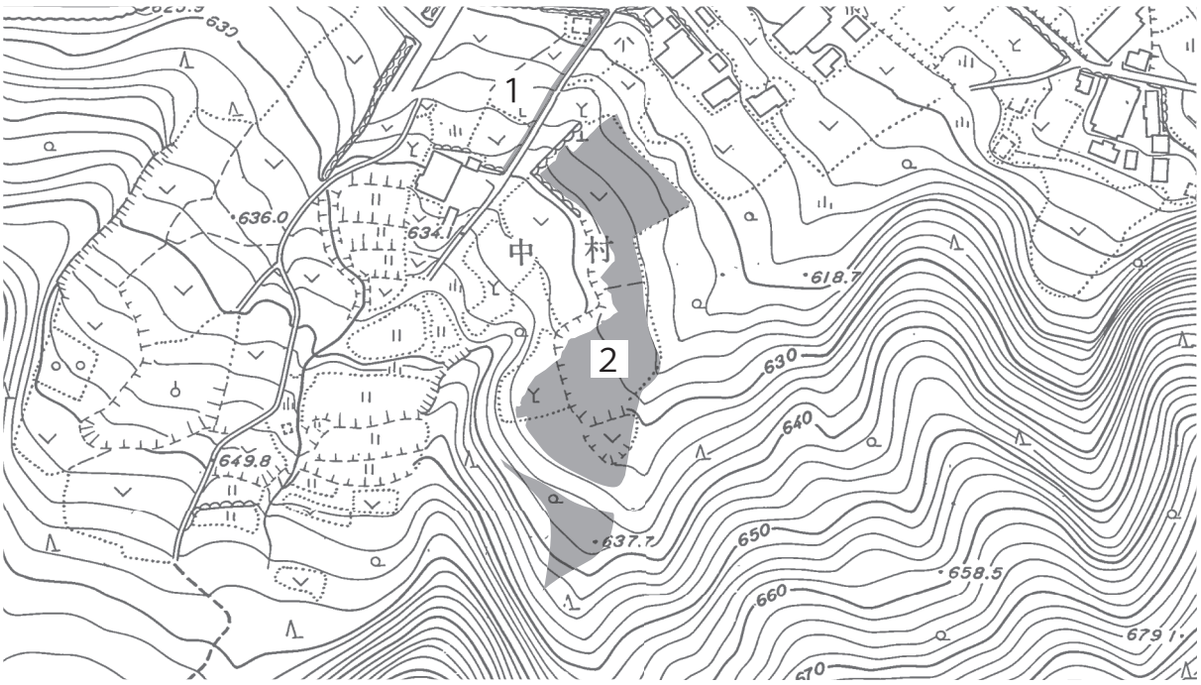
第Ⅰ層　黒 褐 色 土 ：表土である。粘性はあり、しまりは弱い。砂礫（φ 0.1 ～ 4.0㎝）を含む。

第Ⅱ層　黒 褐 色 土 ：粘性は弱く、しまりはある。白色粒（φ 0.1 ～ 0.5㎝）を微量含む。

第Ⅲ層　褐 灰 色 土 ：粘性は弱く、しまりはある。As-Kk（φ 0.1 ～ 0.5㎝）を含む。

第Ⅳ層　灰黄褐色土 ：ローム二次堆積層である。粘性は弱く、しまりはある。ロームブロック（φ 0.5 ～ 3.0㎝）・黒色土ブロック（φ 2.0 ～ 10.0㎝）・砂礫（φ 0.5 ～ 30㎝）を含む。

第Ⅴ層　黒 褐 色 土 ：粘性は弱く、しまりはある。YPk（φ 0.1 ～ 1.0㎝）・砂礫（φ 0.2 ～ 10.0㎝）を微量含む。

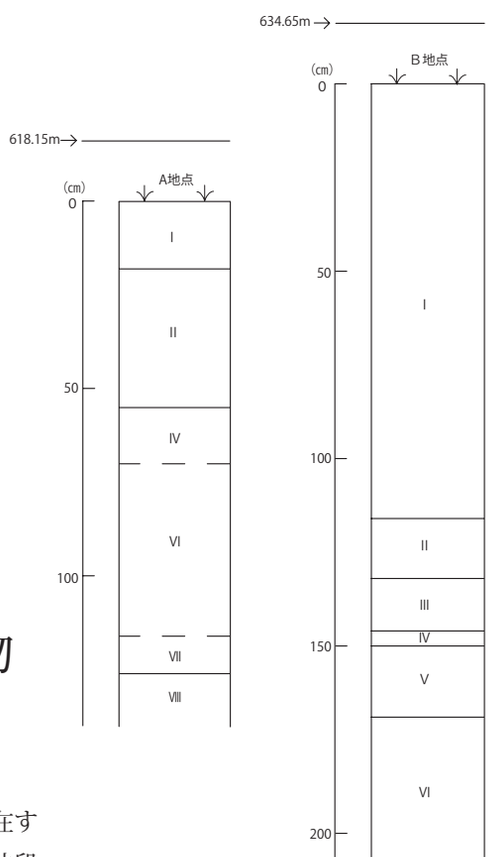


第212図　調査区位置図（1/2,500）

第Ⅵ層　褐 灰 色 土 ： 粘性・しまりともにある。YPk（φ 0.3 ～ 2.0㎝）を含み、炭化粒（φ 0.1 ～ 0.3㎝）・砂礫（φ 0.1 ～ 30.0㎝）・褐色粒（φ 0.5 ～ 1.0㎝）を微量含む。試掘 34 ～ 38 号トレンチの５層に相当する。

第Ⅶ層　褐 灰 色 土 ： ローム漸移層である。粘性・しまりともにある。ロームブロック（φ 8.0 ～ 10.0㎝）・YPk（φ 0.5 ～ 1.0㎝）を含み、褐色粒（φ 0.5 ～ 1.0㎝）・砂礫（φ 0.5 ～ 1.5㎝）を微量含む。試掘 34 ～ 38 号トレンチの６層に相当する。

第Ⅷ層　浅黄橙色土 ： ローム層である。粘性は弱く、しまりはある。YPk（φ 0.05 ～ 0.5㎝）を含み、褐色粒（φ 0.05 ～ 0.1㎝）・砂礫（φ 0.1 ～ 0.5㎝）を微量含む。

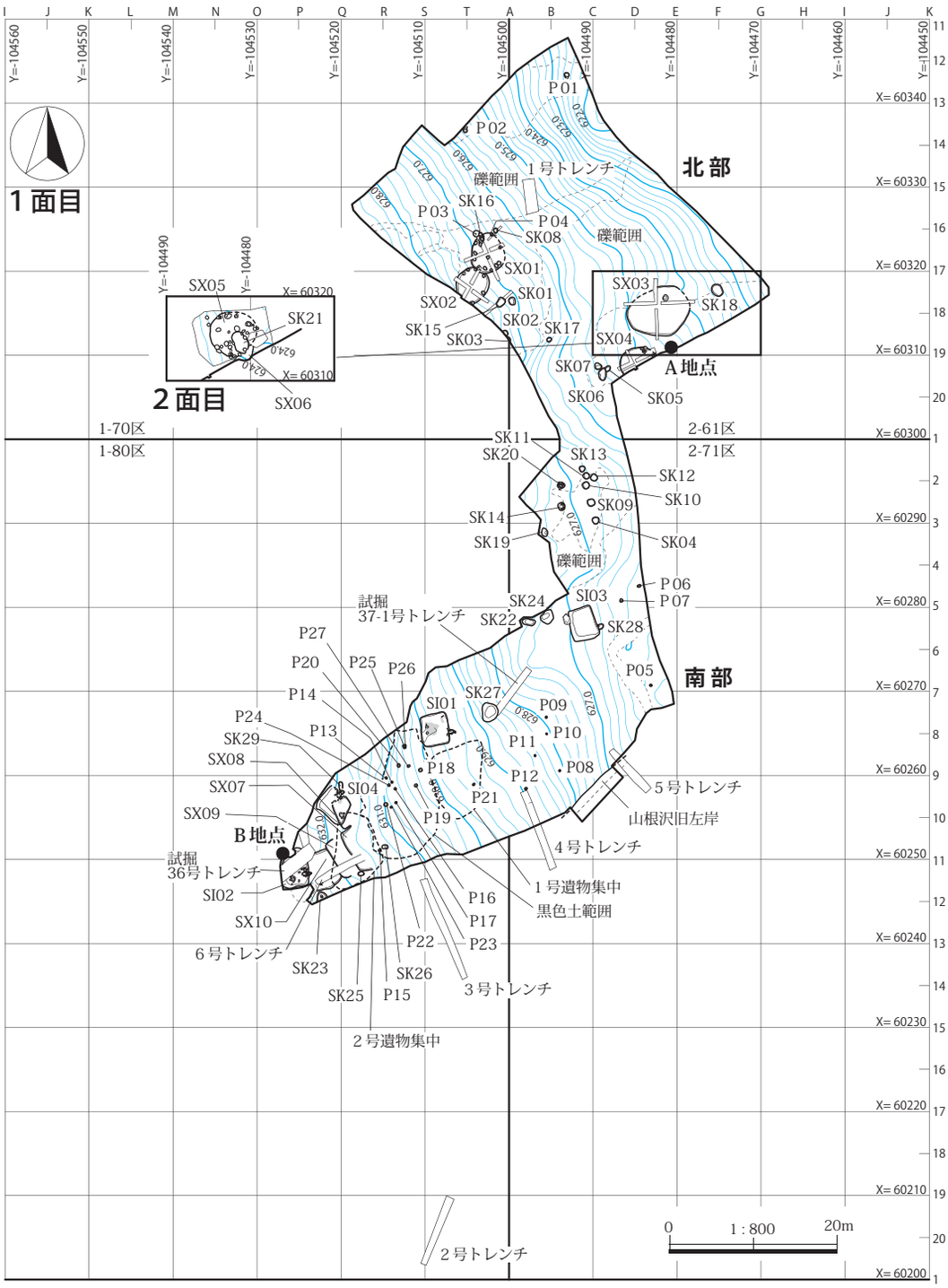


第213図　基本土層柱状図（1/20）

第４章　検出された遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

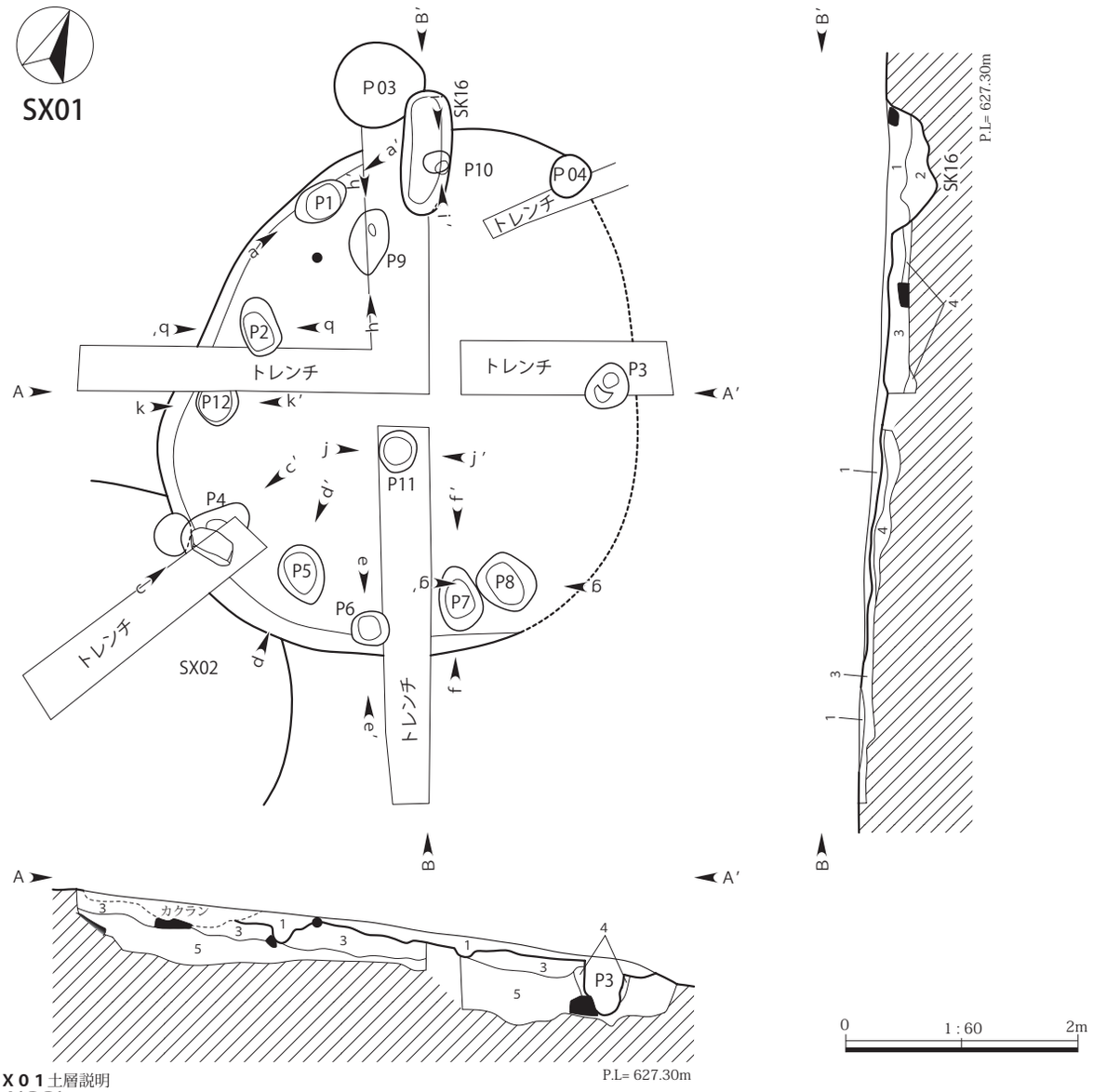
山根Ⅳ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字山根に所在する平安時代の集落を主体とする遺跡である。吾妻川右岸の中位段丘面の南方に立地し、西側には中村沢、東側には山根沢が流れる。



第214図　調査区全体図（1/800）

山根沢によりもたらされたと考えられる堆積物や土砂崩れなどによる礫が調査区北部に多量に堆積している。調査区南東端で山根沢の旧左岸と推定される谷状の落ち込みが確認された。南西には丸岩山・菅峰、北には王城山がそびえる。南から北へ向かって下る傾斜地で、標高は 621.8 m～ 632.0 mである。現況は畑地である。

今回の発掘調査は山根Ⅳ遺跡の第２次調査にあたる。調査範囲は遺跡の南東部約２分の１にあたり、大字横壁字山根 338-11 他に所在する。確認された遺構は、縄文時代の竪穴状遺構６基、土坑５基、平安時代の竪穴住居跡４軒、竪穴状遺構３基、遺物集中２ヵ所、時期不明の土坑 24 基、ピット 27 基である。縄文時代の遺構は北部に分布し、竪穴住居跡など平安時代の遺構は南部に分布している。出土遺物の種類は、縄文土器、土



ＳＸ０１土層説明
ＡＡ′ＢＢ′

カクラン 黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）微量含む。
1．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.5cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～6.0cm）微量含む。
2．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.4cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）微量含む。
3．暗オリーブ色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～7.0cm）多量含む。YPk（φ0.1～2.0cm）含む。
4．暗 灰 黄 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～7.0cm）多量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
5．黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。

第215図　SX01実測図（1/60）

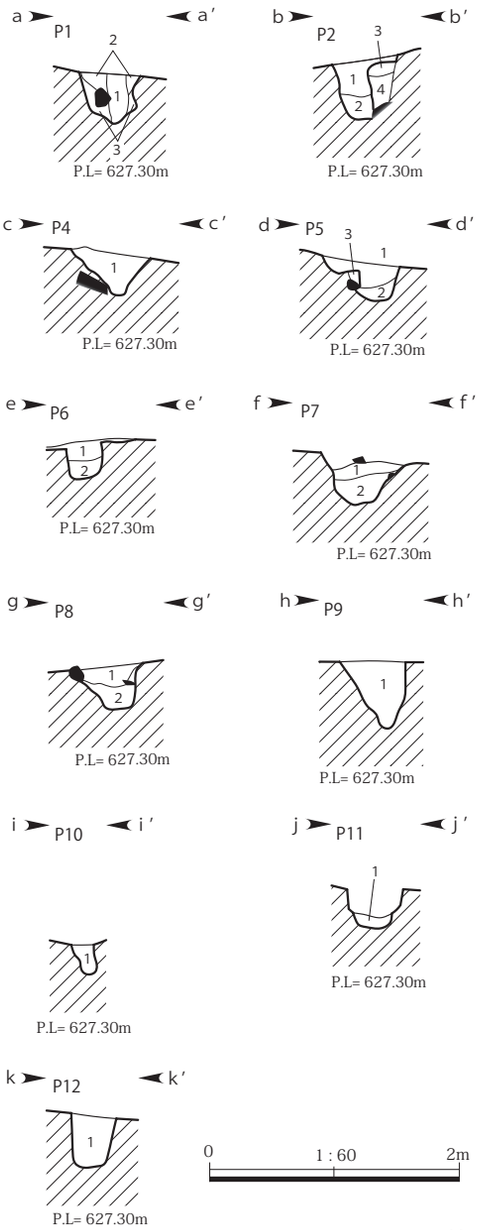
師器、須恵器、陶磁器、鉄製品で、その数量はテンバコ２箱分であった。

第２節　縄文時代の遺構と遺物

（１）竪穴状遺構

SX01（第 215・216 図／第 30 表／ＰＬ 27）

位置　１－70 区Ｔ－16　**重複関係**　SX02・SK16 と重複し、SK16 より古く、SX02 より新しい。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　不整円形を呈する。規模は主軸 4.86 m、副軸 4.06 m、深さ 69㎝、床面積 12.23㎡。　**主軸方位**　Ｎ－15°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は南壁 14㎝、西壁 22㎝、東壁 24㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは



ＳＸ０１Ｐ１土層説明
ａａ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
3．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。砂礫（φ0.1～30.0cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ２土層説明
ｂｂ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
2．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.5cm）微量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
4．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.5cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ４土層説明
ｃｃ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.1～0.7cm）含む。ロームブロック（φ0.5～4.5cm）・褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～2.0cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ５土層説明
ｄｄ′
1．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～1.5cm）多量含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.5cm）・砂礫（φ0.1～3.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～3.5cm）微量含む。
3．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～1.5cm）多量含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・褐色粒（φ0.1～0.5cm）・砂礫（φ0.1～3.0cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ６土層説明
ｅｅ′
1．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）多量含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.5～1.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ７土層説明
ｆｆ′
1．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）多量含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。砂礫（φ0.5～10.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.5～3.0cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ８土層説明
ｇｇ′
1．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.8cm）多量含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.3～12.0cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.5～2.0cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ９土層説明
ｈｈ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.4cm）含む。ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.1～3.0cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ１０土層説明
ｉｉ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりやや弱い。YPk（φ0.05～0.1cm）少量含む。炭化物（φ0.5cm）・砂礫（φ0.05～0.1cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ１１土層説明
ｊｊ′
1．黒色土層：粘性弱い。しまりあり。砂礫（φ0.1～6.0cm）含む。YPk（φ0.05～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０１Ｐ１２土層説明
ｋｋ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.05～0.3cm）含む。砂礫（φ0.1～1.5cm）微量含む。

第216図　SX01断面図（1/60）

認められなかった。　**柱穴**　壁に沿ってめぐるＰ１～Ｐ12までを検出した。平面形は楕円形を呈するものが多い。規模については第30表に記した。　**炉**　検出されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　縄文土器片４点が覆土中から出土した。　**遺物**　出土遺物はいずれも小破片であるため図示しなかった。

第30表　SX01ピット計測表

	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６
長軸長（cm）	48	50	38	66	52	28
短軸長（cm）	30	32	32	（18）	38	32
深　さ（cm）	39	46	47	33	29	29

	Ｐ７	Ｐ８	Ｐ９	P10	P11	P12
長軸長（cm）	54	48	56	（100）	36	（32）
短軸長（cm）	36	44	34	52	32	34
深　さ（cm）	43	34	53	24	9	42

備考　立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。出土遺物から縄文時代に帰属すると考えられる。

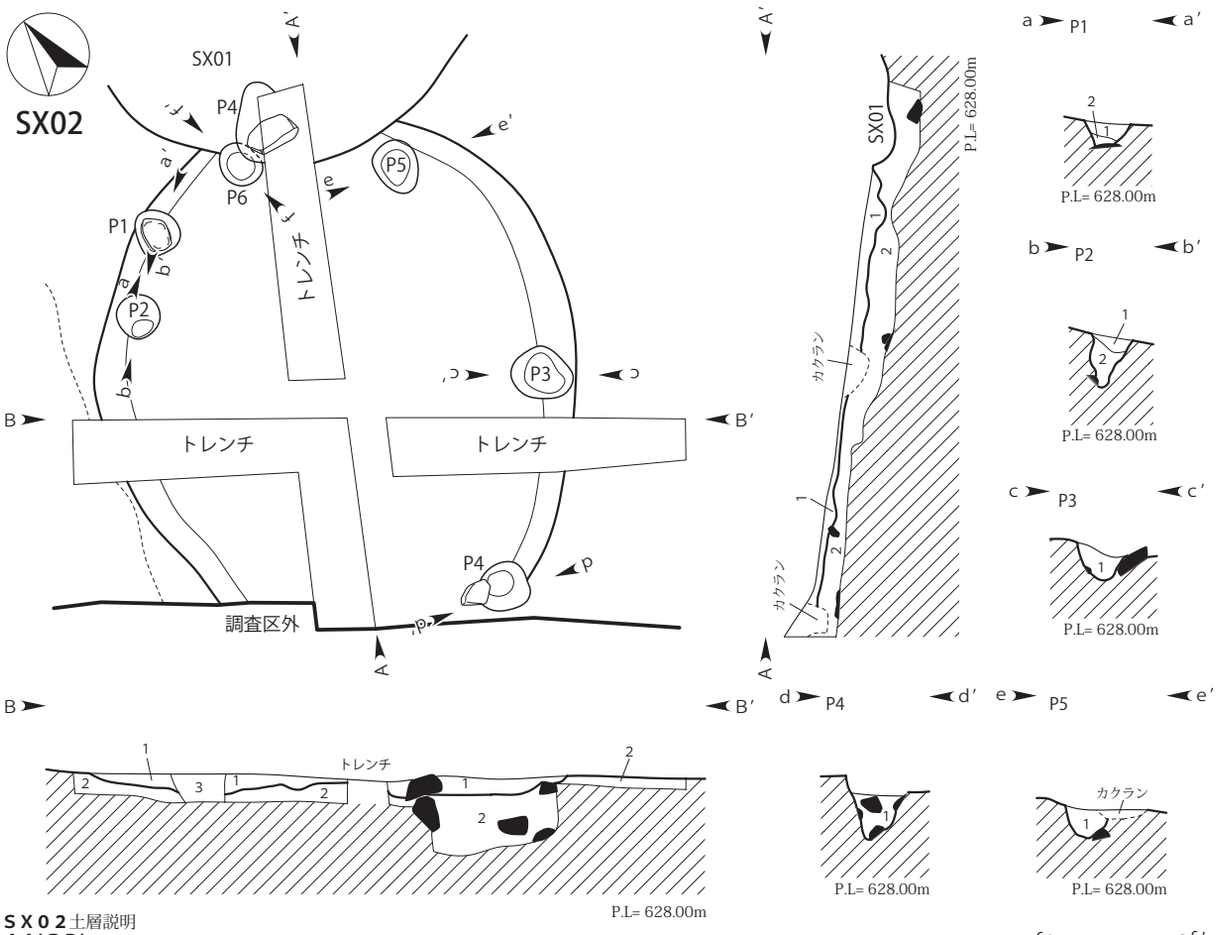
SX02（第217図／第31表／ＰＬ27）

位置　１－70区Ｔ－17　**重複関係**　SX01と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒

褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は主軸 3.78 m以上、副軸 3.82 m、深さ 34㎝、床面積 8.03㎡。　**主軸方位**　N－30°－E　**壁・壁溝**　壁高は北壁 33㎝、西壁 16㎝、東壁 46㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　壁に沿ってめぐるＰ１～Ｐ６までを検出した。平面形は楕円形を呈するものが多い。規模については第 31 表に記した。　**炉**　検出されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　出土しなかった。　**遺物**　なし。　**備考**　立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。SX01 との重複関係から、縄文時代に帰属すると考えられる。

第 31 表　SX02 ピット計測表

	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４	Ｐ５	Ｐ６
長軸長（㎝）	36	34	44	40	42	34
短軸長（㎝）	34	34	40	38	34	(22)
深　さ（㎝）	18	42	43	22	22	30



ＳＸ０２土層説明
ＡＡ′ＢＢ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.0cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）含む。ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・炭化物（φ0.5～1.5cm）微量含む。

ＳＸ０２Ｐ１土層説明
ａａ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＸ０２Ｐ２土層説明
ｂｂ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～2.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０２Ｐ３土層説明
ｃｃ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・YPk（φ0.1～2.0cm）微量含む。

ＳＸ０２Ｐ４土層説明
ｄｄ′
1．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～4.0 cm）微量含む。

ＳＸ０２Ｐ５土層説明
ｅｅ′
1．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.1～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０２Ｐ６土層説明
ｆｆ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.05～1.0cm）含む。褐色粒（φ0.05～0.8cm）・砂礫（φ0.1～2.5cm）微量含む。

0　1：60　2m

第217図　SX02実測図（1/60）

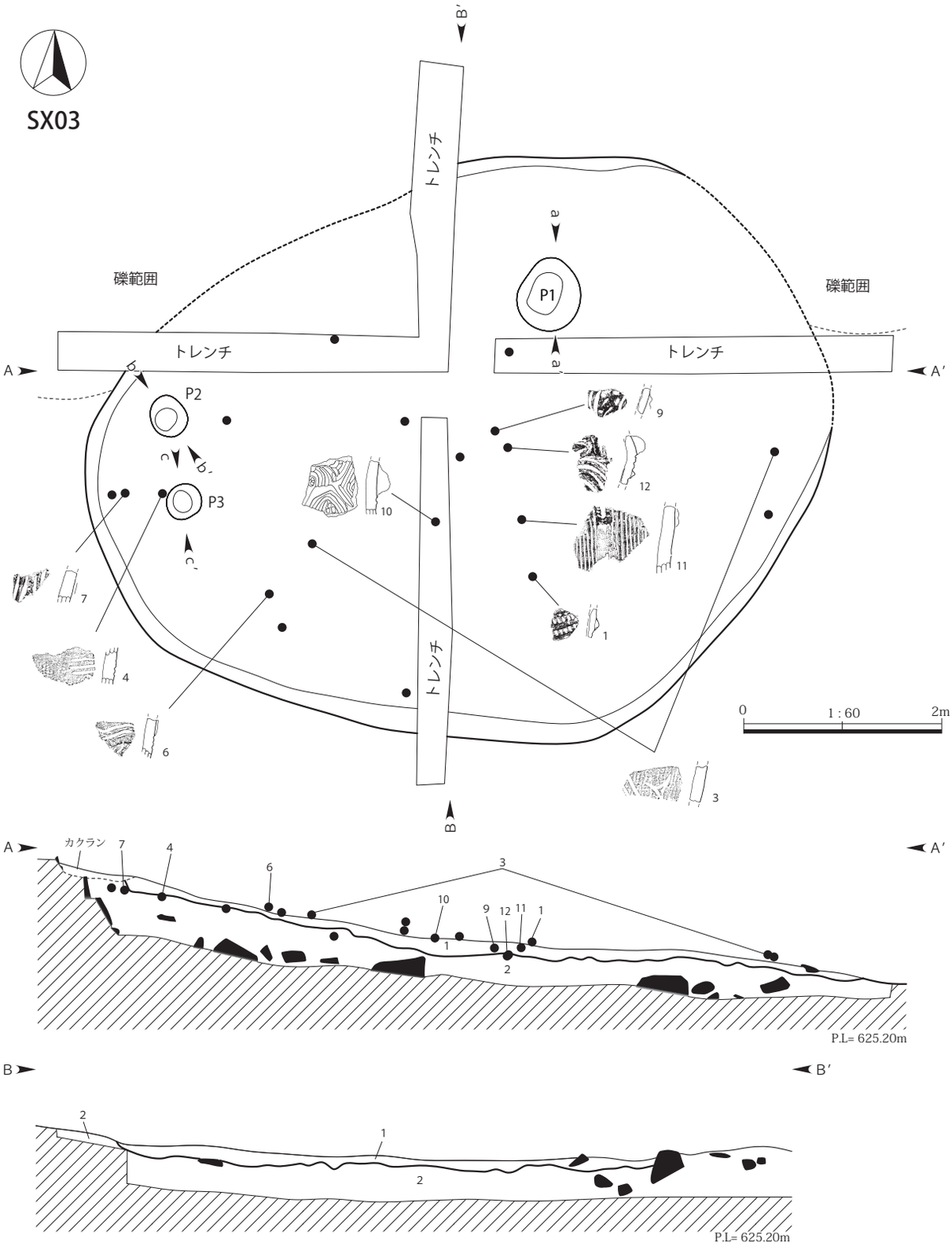
SX03（第 218 ～ 220 図／第 32・38 表／ＰＬ 27・33）

位置　２－61 区Ｄ－ 18　**重複関係**　SX05 の上層に位置する。

遺存状態　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　不整楕円形を呈する。規模は主軸推定 7.62 m、副軸 5.96 m、深さ 48㎝、床面積 29.98㎡。　**主軸方位**　Ｎ－

第 32 表　SX03 ピット計測表

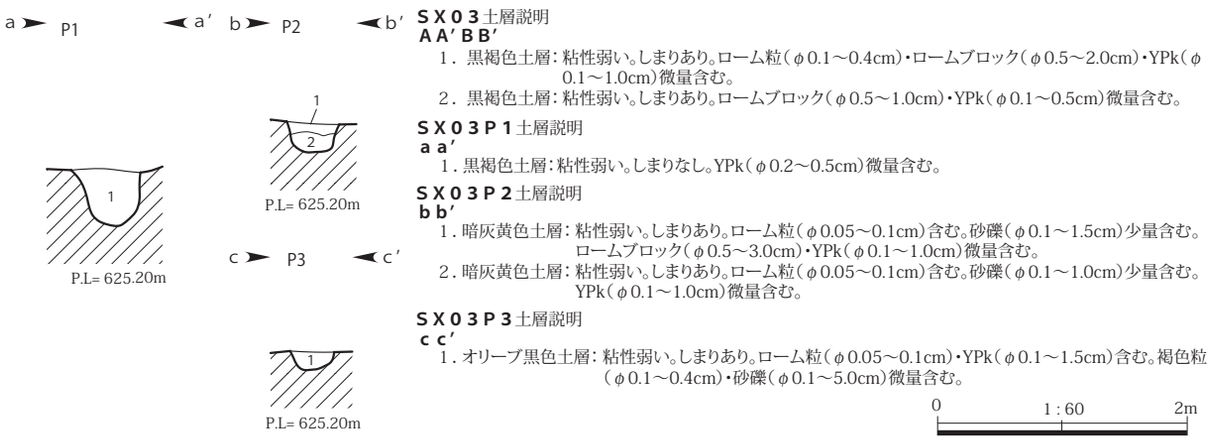
	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３
長軸長（㎝）	70	42	36
短軸長（㎝）	64	34	34
深　さ（㎝）	44	23	14



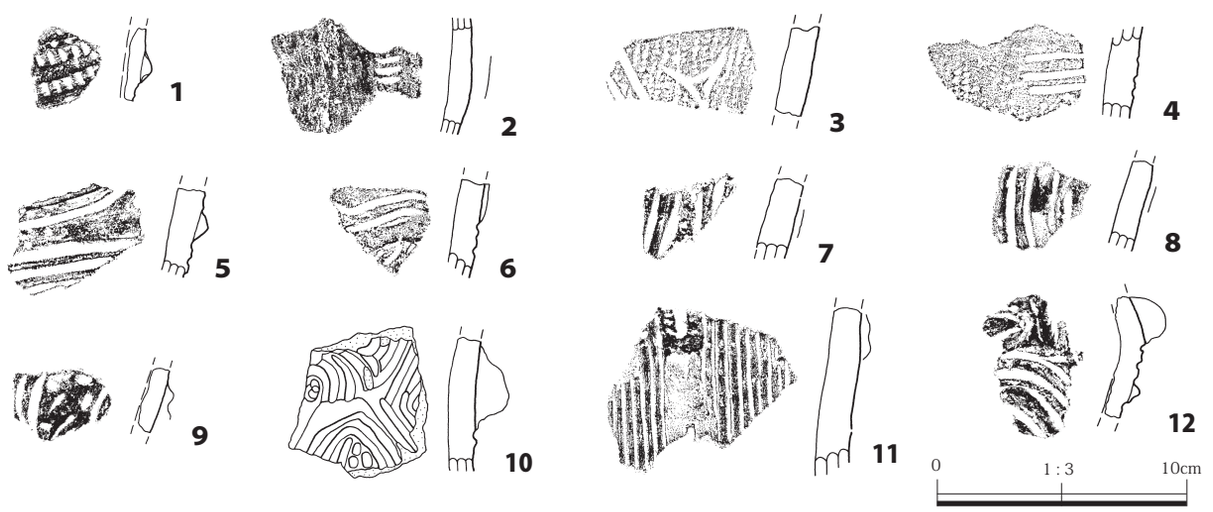
第218図　SX03実測図・遺物出土状況図（1/60）

87°－E　**壁・壁溝**　壁高は北壁 7㎝、南壁 5㎝、西壁 12㎝、東壁 7㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　Ｐ１～Ｐ３を検出した。平面形は円形を呈する。規模については第 32 表に記した。　**炉**　検出されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。

遺物出土状況　焼町類型・勝坂式の縄文土器片が混在して出土した。　**遺物**　出土遺物 28 点のうち、文様の識別出来るものを選び、縄文土器片 12 点を図示した。　**備考**　立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。出土遺物から縄文時代中期中葉（勝坂式期）に帰属すると考えられる。



第219図　SX03断面図（1/60）



第220図　SX03出土遺物実測図（1/3）

SX04（第 221・222 図／第 33・38 表／ＰＬ 27・33）

位置　２－61 区Ｃ－19　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南東部の約半分は調査区外であるが、概ね良好である。

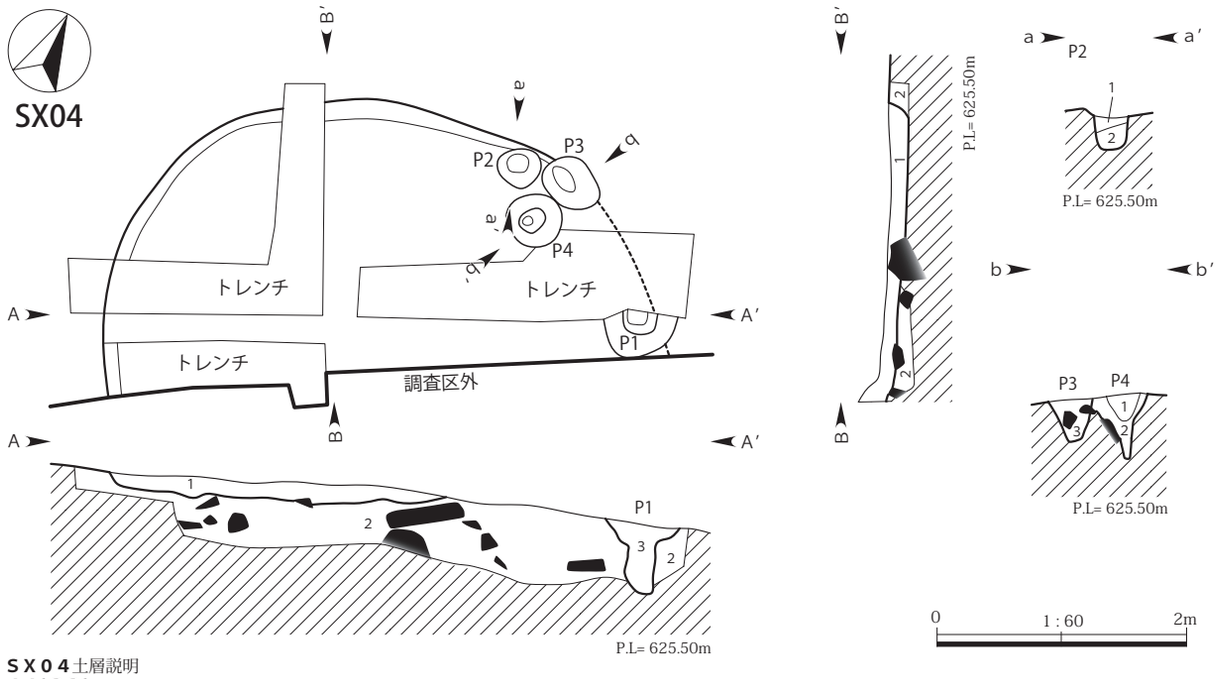
覆土　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は主軸 4.48 m、副軸 2.16 m以上、深さ 63㎝、床面積 6.28㎡。　**主軸方位**　Ｎ－62°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 16㎝、西壁 9㎝、東壁 30㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。

床面　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　Ｐ１～Ｐ４を検出したが、並びに規則性は見られなかった。規模については第 33 表に記した。　**炉**　検出されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。

遺物出土状況　覆土から１点、Ｐ２から１点の勝坂式縄文土器片が出土した。　**遺物**　縄文土器片２点を図示した。　**備考**　立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状

第 33 表　SX04 ピット計測表

	Ｐ１	Ｐ２	Ｐ３	Ｐ４
長軸長（㎝）	(38)	32	46	44
短軸長（㎝）	56	32	38	34
深　さ（㎝）	55	25	34	52

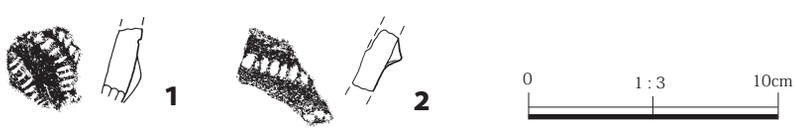


ＳＸ０４土層説明
ＡＡ′ＢＢ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～7.0cm）・YPk（φ0.1～1.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
3．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・YPk（φ0.1～1.5cm）微量含む。

ＳＸ０４Ｐ２土層説明
ａａ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～2.5cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＸ０４Ｐ３・Ｐ４土層説明
ｂｂ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～9.0cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.1～2.5cm）微量含む。
3．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。砂礫（φ0.1～15.0cm）含む。YPk（φ0.1～0.2cm）・褐色粒（φ0.05～0.1cm）微量含む。

第221図　SX04実測図（1/60）



第222図　SX04出土遺物実測図（1/3）

遺構として扱った。出土遺物から縄文時代中期中葉（勝坂式期）に帰属すると考えられる。

SX05（第 223 ～ 225 図／第 34・38 表／ＰＬ 28・33）

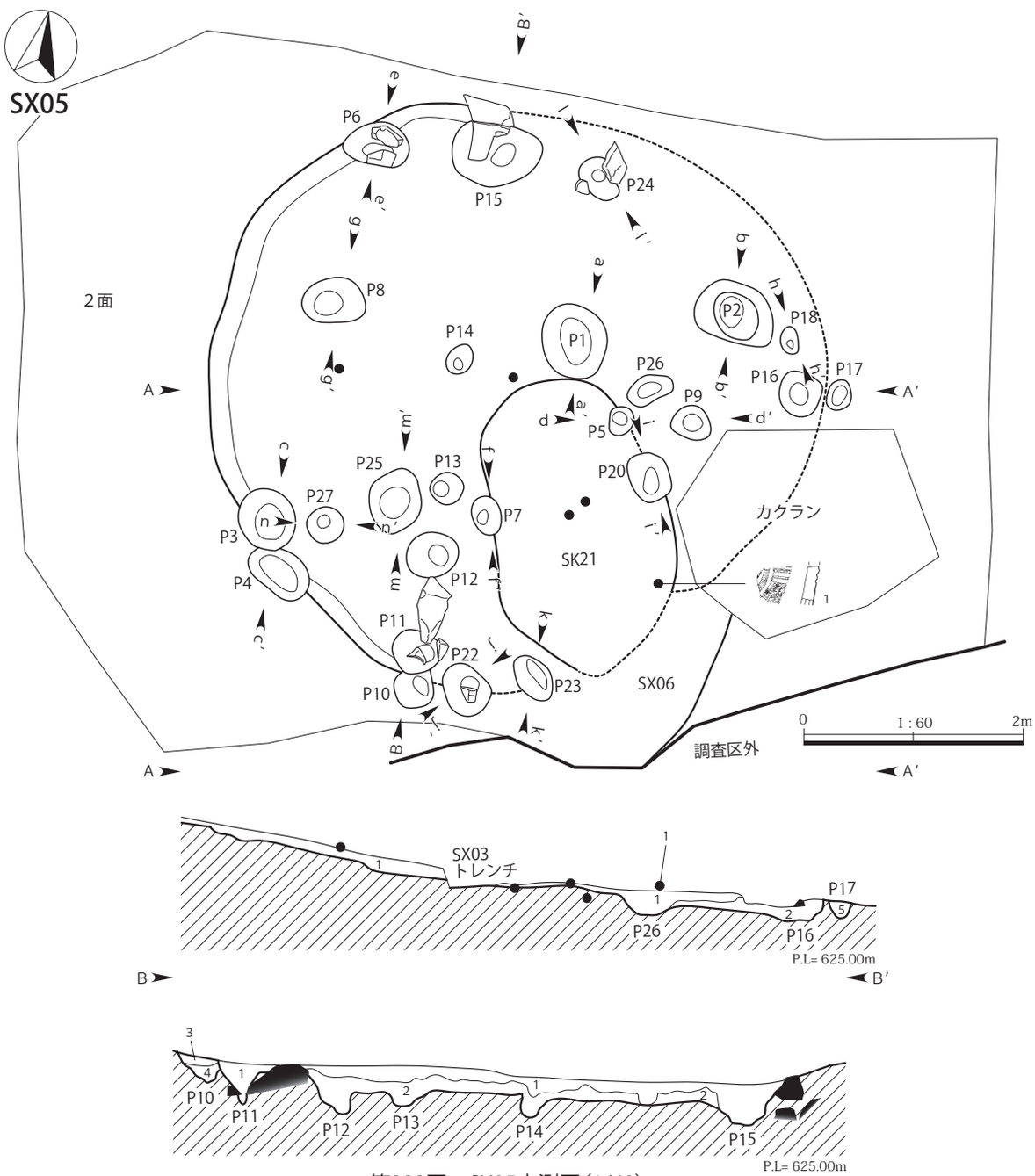
位置　２－61 区Ｄ－18　**重複関係**　SX03 の下層に位置する。SX06・SK21 と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　東側は削平されており壁は現存しない。　**覆土**　上層は黒色土、下層は黄灰色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　削平を受けており不明確だが平面形は円形を呈すると考えられる。規模は主軸 5.6 m、副軸推定 5.28 m、深さ 22㎝、床面積 19.62㎡。　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 6㎝、南壁 12㎝、西壁 7㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　Ｐ１～Ｐ 27 までを検出したが、後にＰ 19 とＰ 21 は SX03 に伴うものと判断し遺構名を振り替えたため欠番とした。規模については第 34 表に記した。　**炉**　検出されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　本遺構覆土から縄文土器片が５点、Ｐ２・Ｐ８の覆土中からそれぞれ縄文土器片が２点出土した。　**遺物**　本遺構覆土から出土した縄文土器片１点を図示した。　**備考**　立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると考えられる。

第 34 表　SX05 ピット計測表

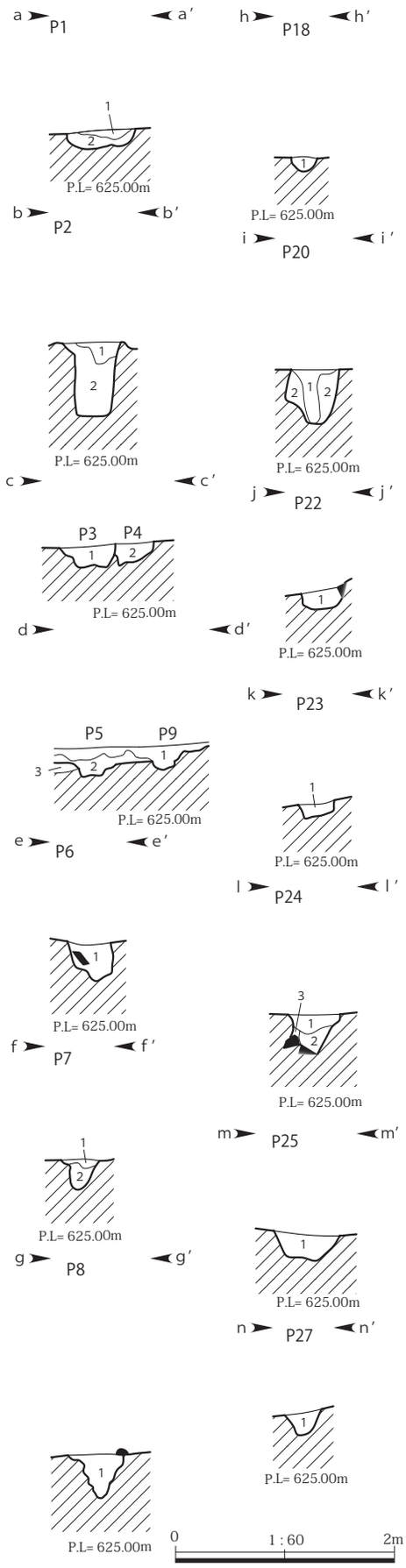
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11
長軸長（cm）	68	72	54	60	26	58	36	58	34	(30)	46
短軸長（cm）	58	52	52	38	22	40	26	40	30	34	40
深　さ（cm）	16	67	20	19	17	33	28	40	18	22	38

	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P20	P22	P23	P24
長軸長（cm）	46	30	26	80	38	28	26	44	48	46	42
短軸長（cm）	40	28	24	56	36	22	16	36	40	28	(24)
深　さ（cm）	44	37	36	37	19	15	13	49	18	12	35

	P25	P26	P27
長軸長（cm）	52	36	32
短軸長（cm）	46	24	32
深　さ（cm）	22	22	19



第223図　SX05実測図（1/60）



ＳＸ０５土層説明

ＡＡ′ＢＢ′

1．黒 色 土 層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）多量含む。砂礫（φ0.1～15.0 cm）微量含む。
2．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.1～0.5cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.1～0.2cm）微量含む。
3．黒 色 土 層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）・砂礫（φ0.1～0.5cm）微量含む。
4．暗灰黄色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
5．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.1～1.5 cm）・砂礫（φ0.1～9.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～3.5cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ１土層説明

ａａ′

1．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～1.0cm）含む。砂礫（φ0.05～1.5cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.05～2.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２土層説明

ｂｂ′

1．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）・砂礫（φ0.1～1.5cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.1～2.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.2cm）・褐色粒（φ0.1～0.8cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ３・Ｐ４土層説明

ｃｃ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）含む。砂礫（φ0.1～5.0cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.7cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）・砂礫（φ0.1～3.5cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ５・９土層説明

ｄｄ′

1．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～2.0cm）含む。砂礫（φ0.1～3.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・褐色粒（φ0.1～0.7cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.1～1.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）・褐色粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.1～2.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～2.0cm）・YPk（φ0.1～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ６土層説明

ｅｅ′

1．黒色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。ロームブロック（φ0.5～9.0cm）・砂礫（φ0.1～15.0cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.7cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ７土層説明

ｆｆ′

1．黒 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.5 cm）・砂礫（φ0.1～2.5cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。YPk（φ0.1～0.3 cm）・褐色粒（φ0.1～0.5cm）・砂礫（φ0.1～2.0cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ８土層説明

ｇｇ′

1．黒色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・ロームブロック（φ0.5～6.0cm）・YPk（φ0.1～0.3cm）含む。砂礫（φ0.1～15.0cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ１８土層説明

ｈｈ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.1～1.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２０土層説明

ｉｉ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.1～1.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。
2．黄 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）含む。砂礫（φ0.1～1.5cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２２土層説明

ｊｊ′

1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.2cm）・褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～2.0cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２３土層説明

ｋｋ′

1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.4cm）・褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.1～1.0cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２４土層説明

ｌｌ′

1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～1.5cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～1.0cm）微量含む。
2．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）・褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～3.0cm）微量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）・褐色粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２５土層説明

ｍｍ′

1．オリーブ黒色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・ロームブロック（φ0.5～7.0cm）少量含む。炭化物（φ0.1～1.0cm）・褐色粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＸ０５Ｐ２７土層説明

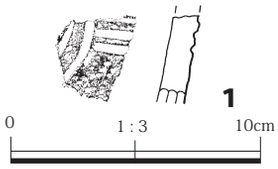
ｎｎ′

1．黒色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）少量含む。砂礫（φ0.1～5.0cm）微量含む。

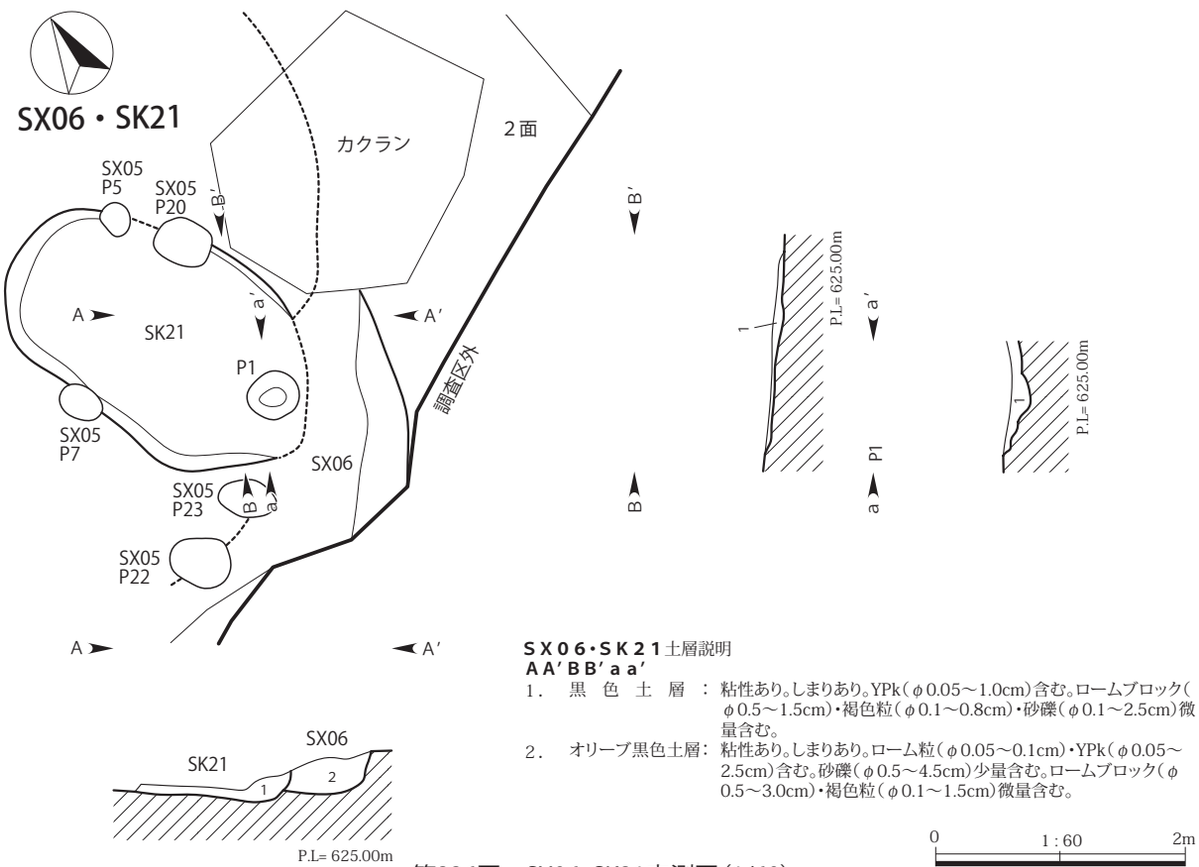
第224図　SX05断面図（1/60）

SX06（第 226 図／ＰＬ 28）

位置　２－61 区Ｄ－ 18　**重複関係**　SX05・SK21 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　SK21 などに壊され、壁はほとんど現存しない。また南側は調査区外である。　**覆土**　オリーブ黒色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は遺存状態が悪いため不明。規模は主軸 1.98 m以上、副軸 0.8 m以上、深さ 28㎝、床面積 0.51㎡。　**主軸方位**　Ｎ－ 23°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は東壁で 22㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**炉**　検出されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　出土しなかった。　**遺物**　なし。　**備考**　立ち上がりが不明瞭で、炉や焼土、踏み締りが認められないことから、住居とはせず竪穴状遺構として扱った。SX05 に切られていることから縄文時代に帰属すると考えられる。



第225図　SX05出土遺物実測図（1/3）



ＳＸ０６・ＳＫ２１土層説明
ＡＡ′ＢＢ′ａａ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。YPk（φ0.05～1.0cm）含む。ロームブロック（φ0.5～1.5cm）・褐色粒（φ0.1～0.8cm）・砂礫（φ0.1～2.5cm）微量含む。
2．オリーブ黒色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・YPk（φ0.05～2.5cm）含む。砂礫（φ0.5～4.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～3.0cm）・褐色粒（φ0.1～1.5cm）微量含む。

第226図　SX06・SK21実測図（1/60）

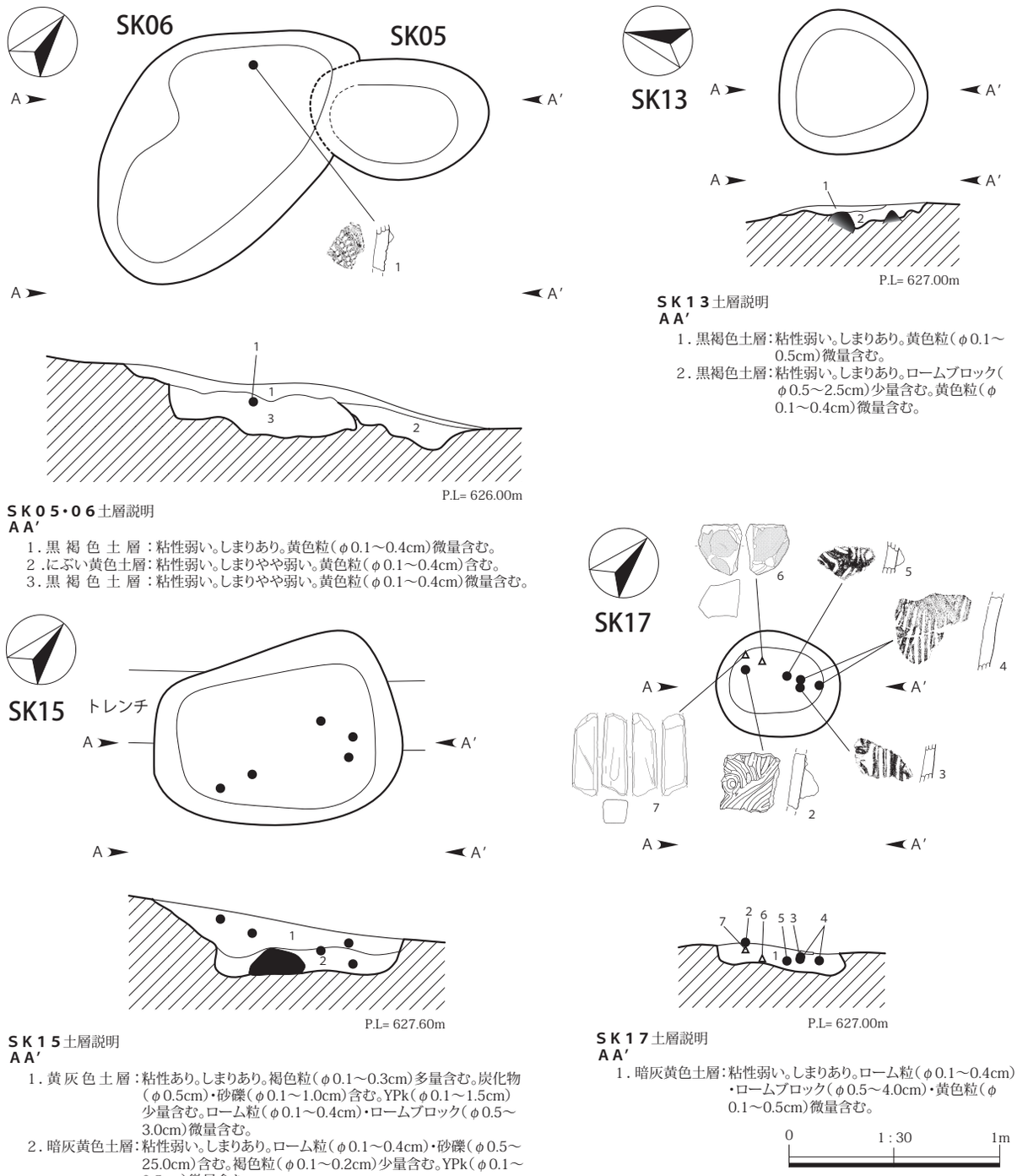
（２）土坑

SK05（第 227 図）

位置　２－61 区Ｃ－ 19　**重複関係**　SK06 と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　南西壁を SK06 に壊されるが、概ね良好である。　**覆土**　にぶい黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 66㎝以上、短軸 52㎝、深さ 16㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 55°－Ｅ　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸がある。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物は出土していないが、SK06 と似た覆土で埋没しているため縄文時代に帰属すると考えられる。

SK06（第 227・228 図／第 38 表／ＰＬ 28・33）

位置　２－61 区Ｃ－ 19　**重複関係**　SK05 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒



ＳＫ０５・０６土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。
2．にぶい黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。黄色粒（φ0.1～0.4cm）含む。
3．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。

ＳＫ１３土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～2.5cm）少量含む。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。

ＳＫ１５土層説明
ＡＡ′
1．黄 灰 色 土 層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.3cm）多量含む。炭化物（φ0.5cm）・砂礫（φ0.1～1.0cm）含む。YPk（φ0.1～1.5cm）少量含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～3.0cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・砂礫（φ0.5～25.0cm）含む。褐色粒（φ0.1～0.2cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

ＳＫ１７土層説明
ＡＡ′
1．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・黄色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。

第227図　SK05・06・13・15・17実測図（1/30）

褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　不整楕円形を呈する。規模は長軸150㎝、短軸76㎝、深さ26㎝。　**主軸方位**　Ｎ－10°－Ｅ　**壁面**　南西壁は外傾し、北東壁は内傾して立ち上がる。　**底面**　やや凹凸がある。　**遺物**　縄文土器１点が出土し、図示した。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK13（第227図／ＰＬ28）

位置　２－71区Ｂ－１　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　不整円形を呈する。規模は長軸70㎝、短軸68㎝、深さ11㎝。　**主軸方位**　Ｎ－４°－Ｗ

壁面　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央がやや窪んだ皿状を呈する。　**遺物**　型式不明の縄文土器片が1点出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK15（第227図／ＰＬ28）

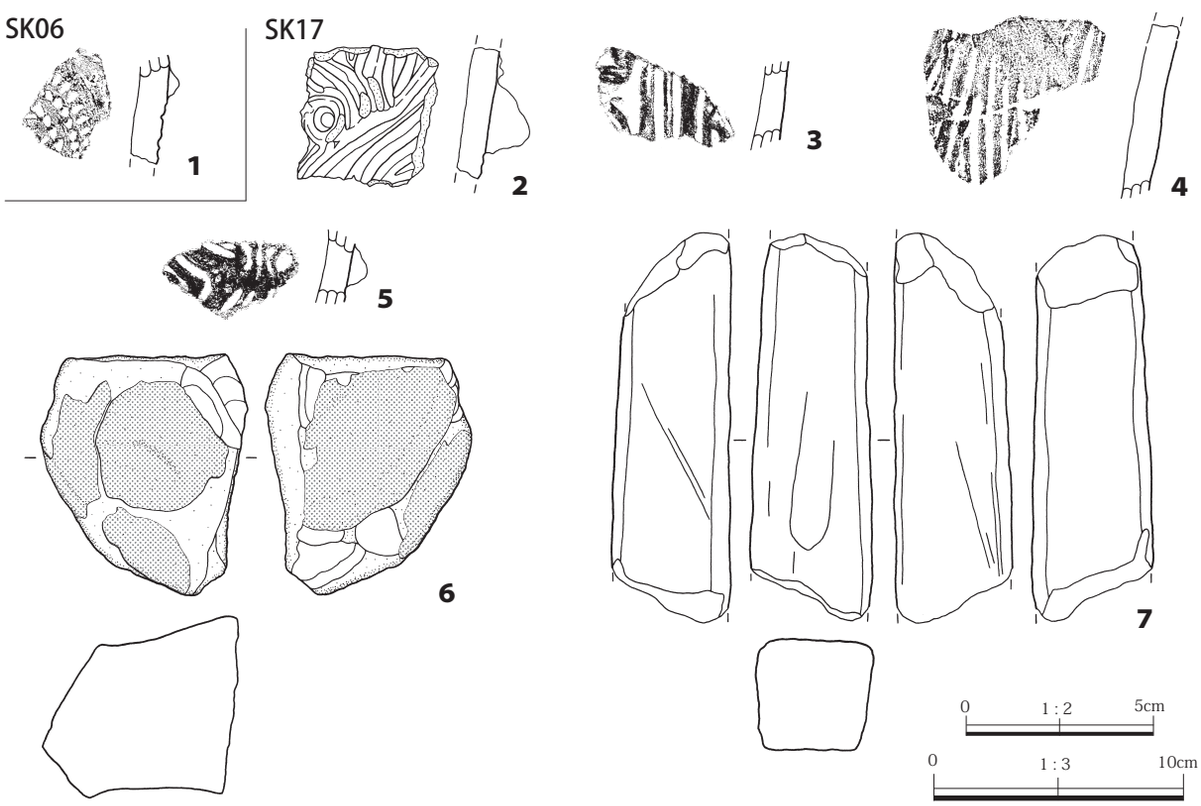
位置　１－70区Ｔ－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黄灰色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は長軸120㎝、短軸74㎝、深さ31㎝。　**主軸方位**　Ｎ－56°－Ｅ　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　型式不明の縄文土器片が５点出土したが、小破片のため図示しなかった。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から縄文時代と考えられる。

SK16（第215図）

位置　１－70区Ｔ－16　**重複関係**　SX01と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸114㎝、短軸44㎝、深さ43㎝。　**主軸方位**　Ｎ－20°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸があり、南に向かって傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　SX01と覆土を同じくするが、SX01の壁や床、P10を切る。

SK17（第227・228図／第38表／ＰＬ28・33）

位置　２－61区Ａ－18　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸59㎝、短軸44㎝、深さ10㎝。　**主軸方位**　Ｎ－60°－Ｅ　**壁面**　南西壁はほぼ垂直に、北東壁は内傾して立ち上がる。　**底面**　北東に向かって傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　焼町類型を含む縄文土器片４点と安山岩の砥石１点、磨石が１点出土している。出土した遺物は全て図示した。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。



第228図　縄文時代土坑出土遺物実測図（1/2・1/3）

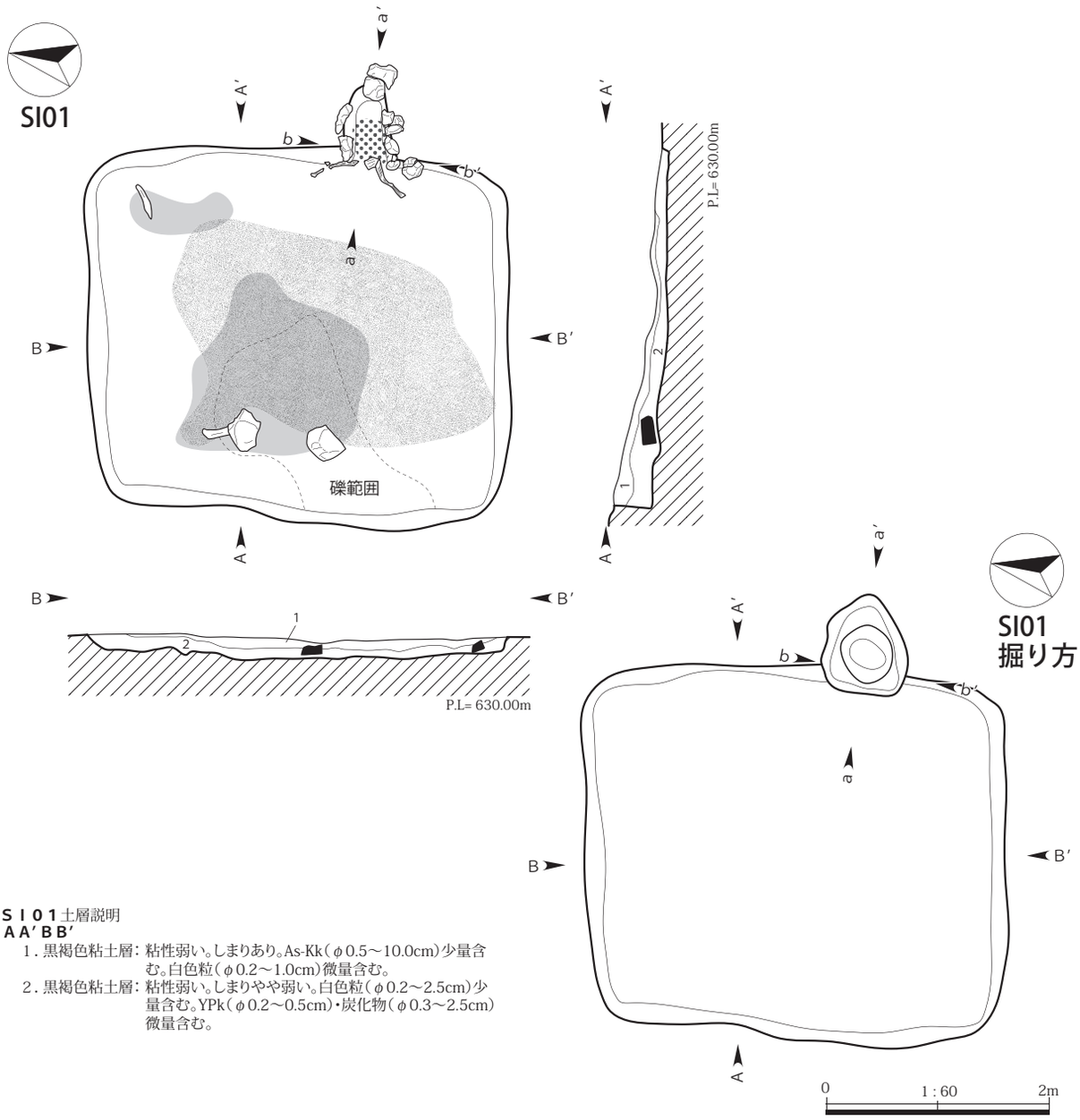
SK21（第 226 図）

位置　２－61 区Ｄ－18　**重複関係**　SX03・05・06 と重複し、SX06 より新しく SX03・05 より古い。　**遺存状態**　上部が削平されている。　**覆土**　黒色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸推定 272㎝、短軸 164㎝、深さ 18㎝。本遺構の南側にはＰ１が確認された。平面形は円形で、長軸 38㎝、短軸 36㎝、深さ 80㎝。　**主軸方位**　Ｎ－15°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　南東に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　なし。　**備考**　帰属時期は、SX05 に切られていることから縄文時代と考えられる。

第３節　平安時代の遺構と遺物

（１）竪穴住居跡

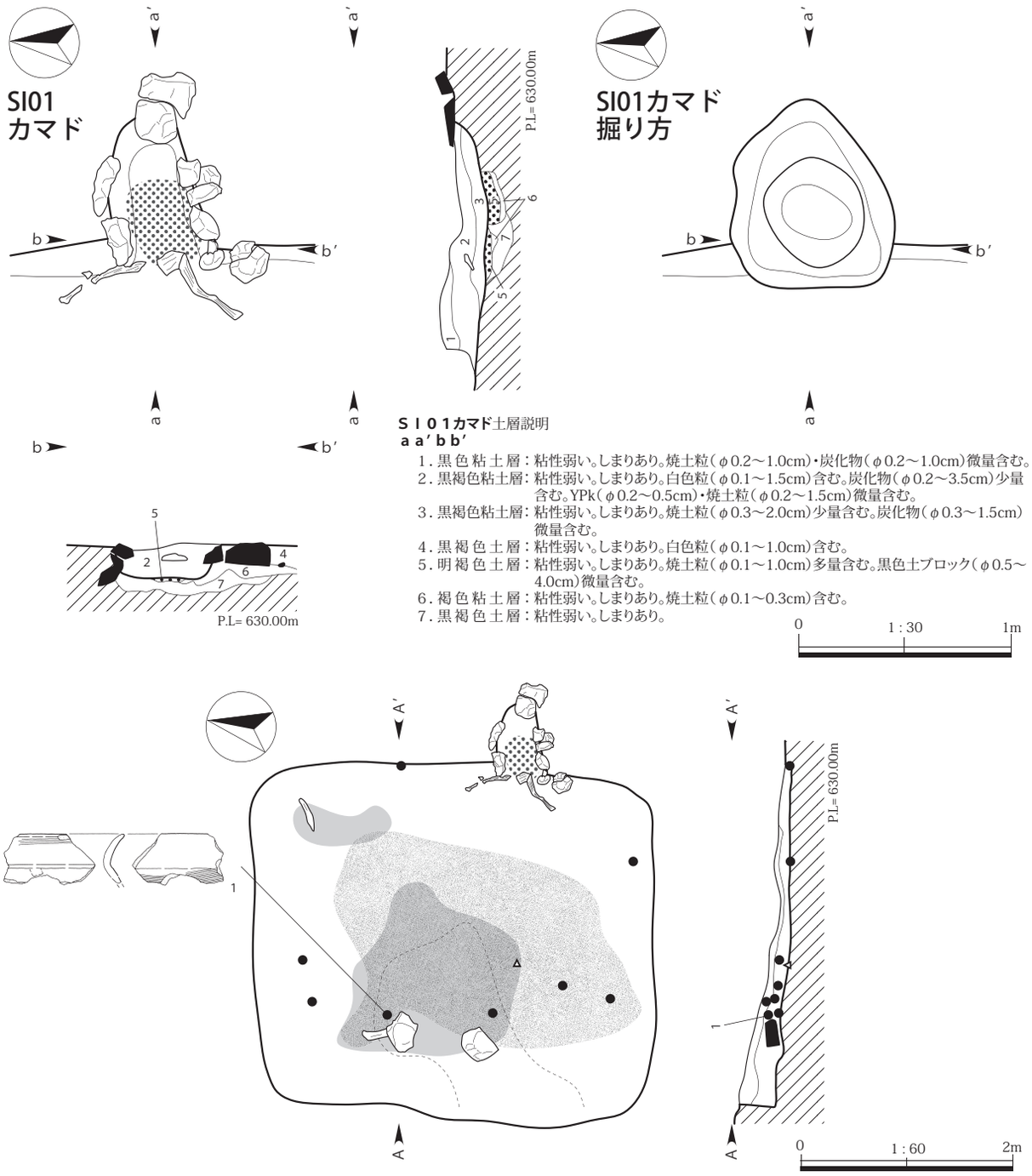
SI01（第 229 ～ 231 図／第 37・38 表／ＰＬ 29・30・33）



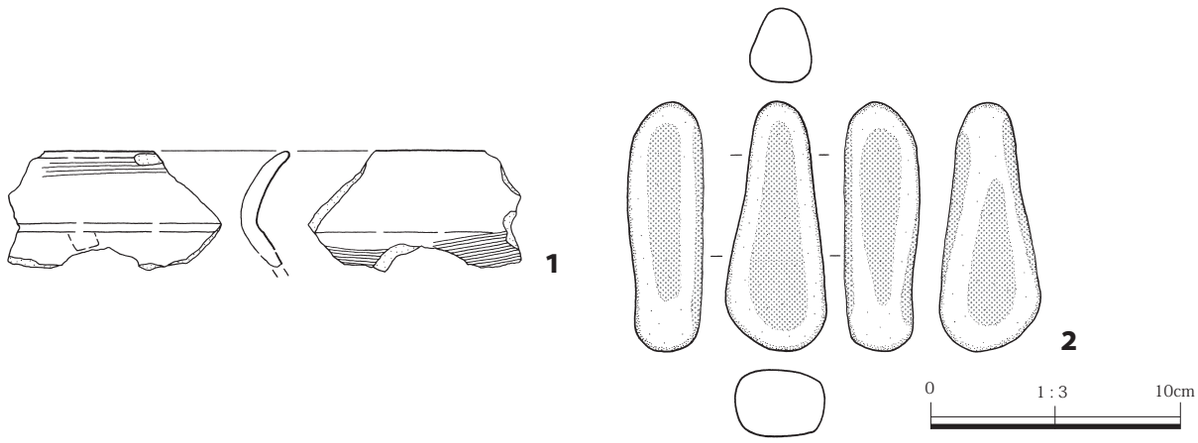
ＳＩ０１土層説明
ＡＡ′ＢＢ′
1．黒褐色粘土層：粘性弱い。しまりあり。As-Kk（φ0.5～10.0cm）少量含む。白色粒（φ0.2～1.0cm）微量含む。
2．黒褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。白色粒（φ0.2～2.5cm）少量含む。YPk（φ0.2～0.5cm）・炭化物（φ0.3～2.5cm）微量含む。

第229図　SI01・掘り方実測図（1/60）

位置　1－80区S－7　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。また、覆土中よりAs-Kkが検出されている。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸3.4 m、副軸3.76 m、深さ39㎝、床面積10.69㎡。　**主軸方位**　N－80°－E　**壁・壁溝**　壁高は北壁13㎝、南壁11㎝、西壁40㎝、東壁6㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　直床式で、踏み締りは確認されなかった。概ね平坦である。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁中央やや南寄りに位置し、遺存状態は良好である。全長72㎝、最大幅42㎝、火床面は13㎝掘り込まれ、焼土部分は8㎝の厚さを有する。周囲に散乱した自然石が支持材として用いられたと考えられる。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　土師器甕1点、器種不明の土師器片10点、磨石1点、チャートの剥片1点が出土した。　**遺物**　出土遺物のうち、土師器甕1点、磨石1点を図示した。　**備考**　本遺構は小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。



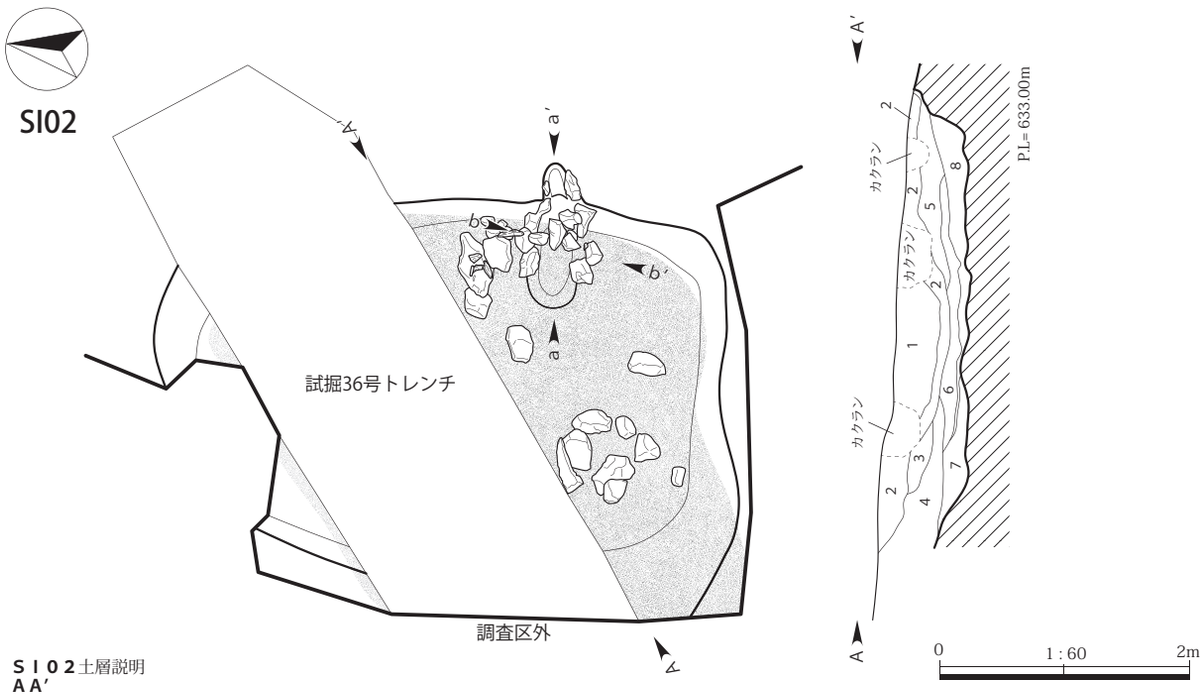
第230図　SI01カマド・カマド掘り方実測図（1/30）・遺物出土状況図（1/60）



第231図　SI01出土遺物実測図（1/3）

SI02（第 232 ～ 234 図／第 37・38 表／ＰＬ 29・30・33）

位置　１－80 区Ｏ－11　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南壁が調査区外であるが、概ね良好である。**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。覆土上層より As-Kk が検出された。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は主軸 3.15 m以上、副軸 4.56 m、深さ 70㎝、床面積 12.88㎡。　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 47㎝、南壁 58㎝、西壁 46㎝、東壁 38㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　直床式で、踏み締りは確認されなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　東壁中央南寄りに位置し、遺存状態は良好である。全長 115㎝、最大幅 32㎝、火床面は 12㎝掘り込まれ、焼土部分は 10㎝の厚さを有する。支持材には自然石が用いられる。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　南側を中心に覆土中からまばらに出土した。　**遺物**　出土遺物のうち、土師器椀１点、羽釜３点、磨石

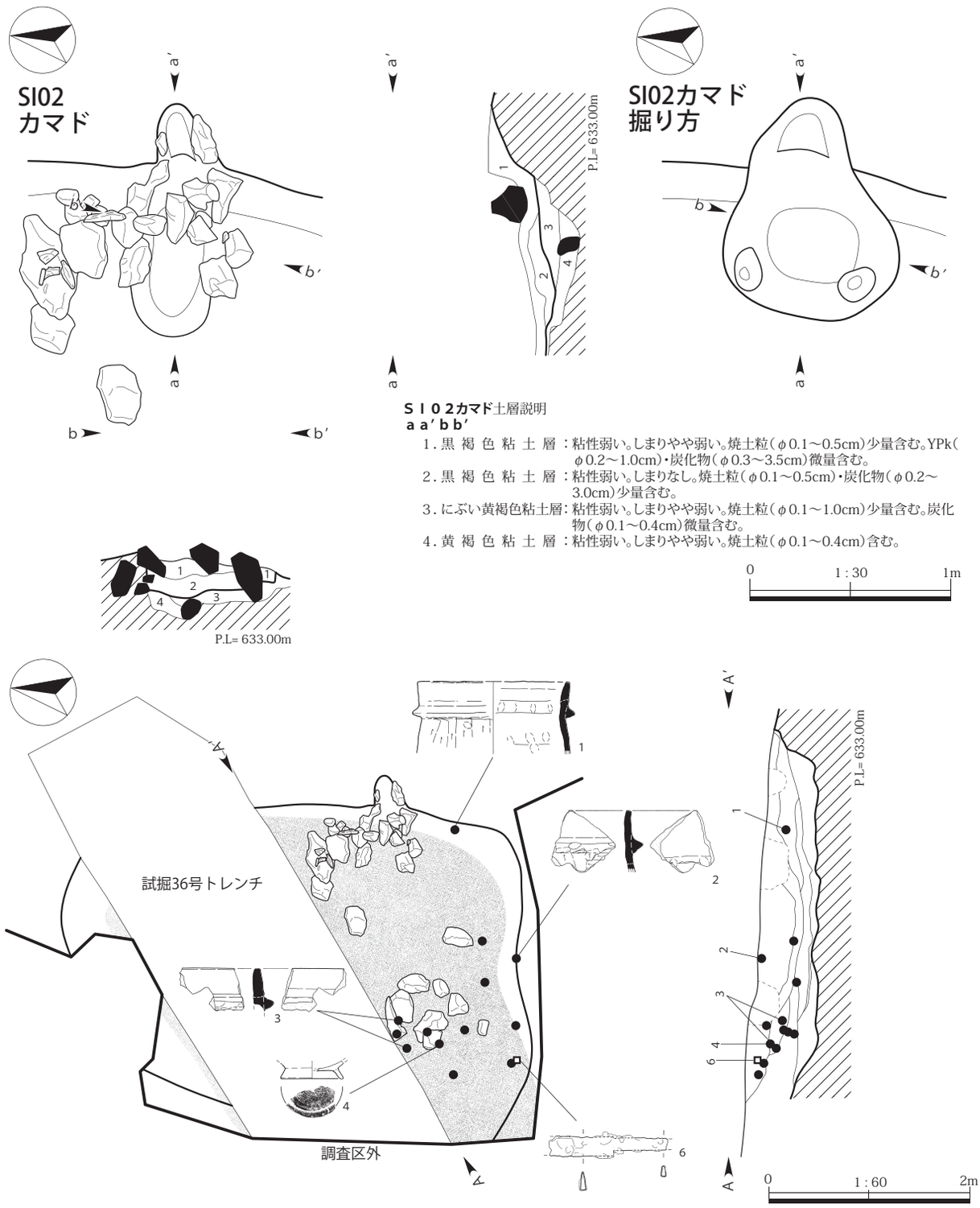


ＳＩ０２土層説明
ＡＡ'

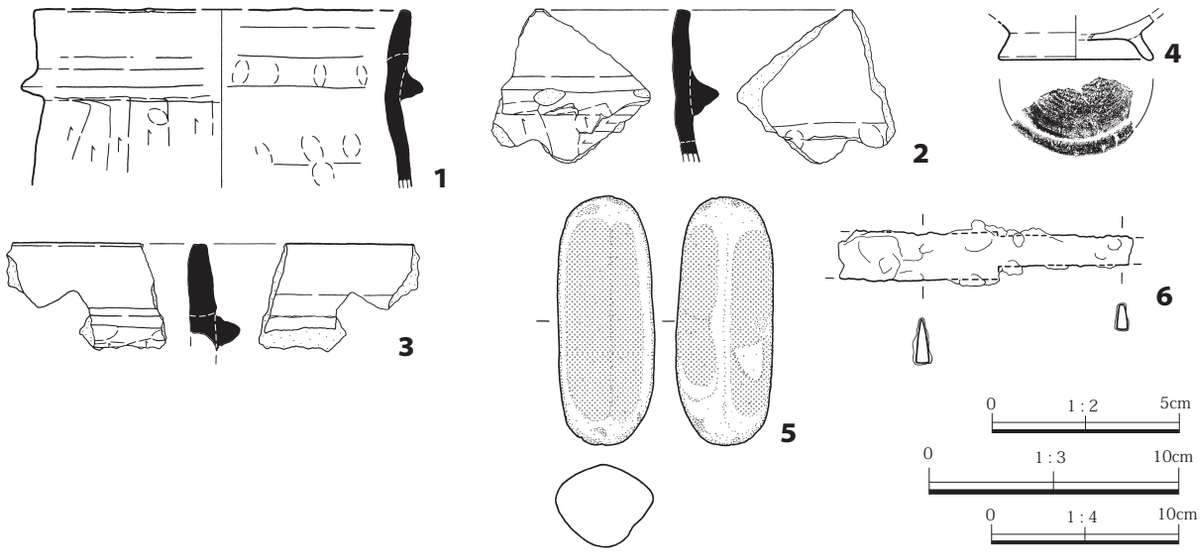
1. 黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2. 黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。As-Kk（φ0.5～10.0cm）少量含む。YPk（φ0.2～1.0cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。
3. 黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）・炭化物（φ0.2～0.5cm）微量含む。
4. 暗オリーブ褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～1.5cm）・炭化物（φ0.3～2.0cm）微量含む。
5. 黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）・炭化物（φ0.2～2.5cm）微量含む。
6. 黒 褐 色 土 層 ：粘性弱い。しまりやや弱い。炭化物（φ0.2～1.0cm）少量含む。YPk（φ0.2～0.5cm）微量含む。
7. 暗オリーブ褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～2.0cm）・炭化物（φ0.2～5.0cm）少量含む。焼土粒（φ0.2～2.0cm）微量含む。
8. 暗オリーブ褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～1.5cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。

第232図　SI02実測図（1/60）

１点、刀子１点を図示した。　**備考**　本遺構は中型の竪穴住居跡である。試掘段階では鉄滓が４点出土し、鍛冶関連遺構と見られていたが、その後の本調査では刀子が１点出土したのみでその他鉄滓や微細遺物は検出されなかった。よって、鍛冶関連遺構と断定できなかったため、通常の竪穴住居跡として扱うこととした。帰属時期は、出土遺物から 10 世紀前半頃と考えられる。



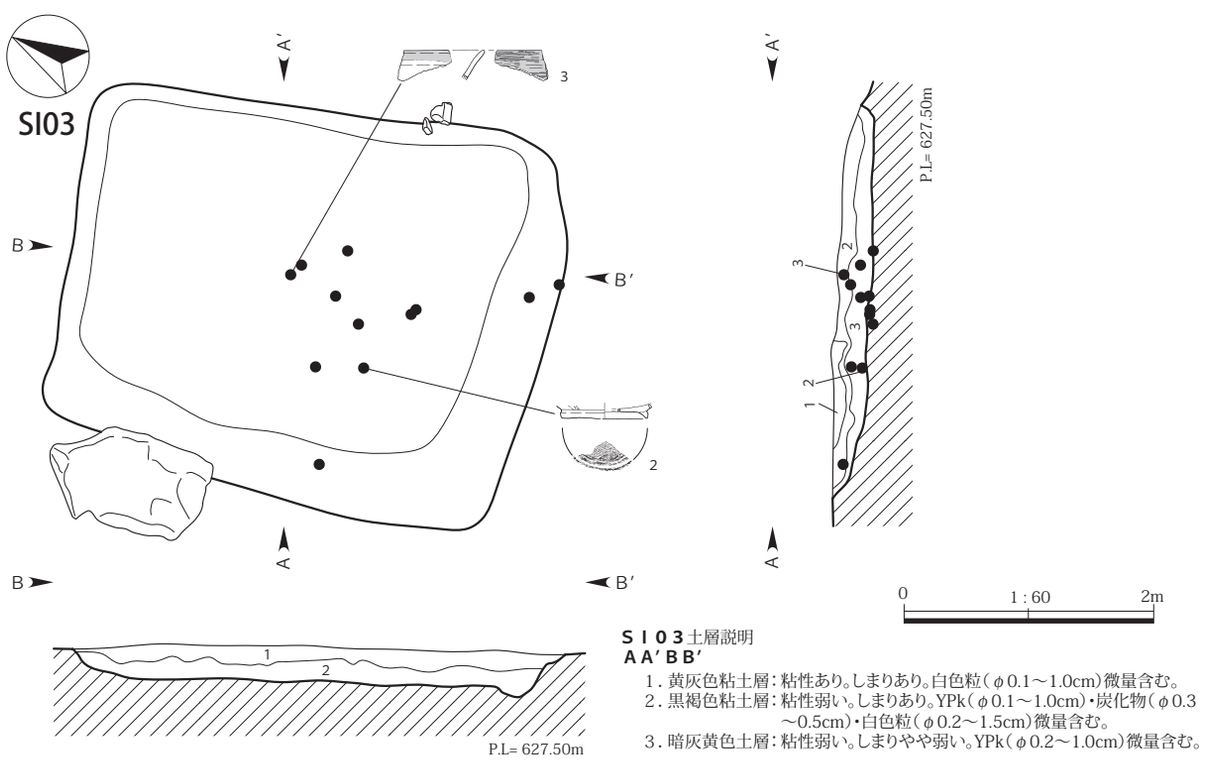
第233図　SI02カマド・カマド掘り方実測図（1/30）・遺物出土状況図（1/60）



第234図　SI02出土遺物実測図（1/2・1/3・1/4）

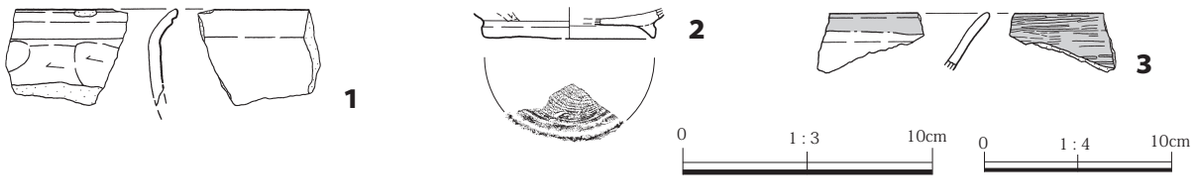
SI03（第 235・236 図／第 37・38 表／ＰＬ 30・33）

位置　２－71 区Ｂ－５　**重複関係**　SK28 と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は主軸 3.11 m、副軸 3.89 m、深さ 29㎝、床面積 7.74㎡。　**主軸方位**　Ｎ－73°－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 13㎝、南壁 34㎝、西壁 13㎝、東壁 14㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　直床式で、踏み締りは確認されなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　コの字状口縁甕を含む土師器片 30 点、土師質土器の杯椀類２点、器種不明の須恵器片２点が出土した。　**遺物**　出土遺物のうち、土師器甕１点、土師質土器の杯椀類２点を図

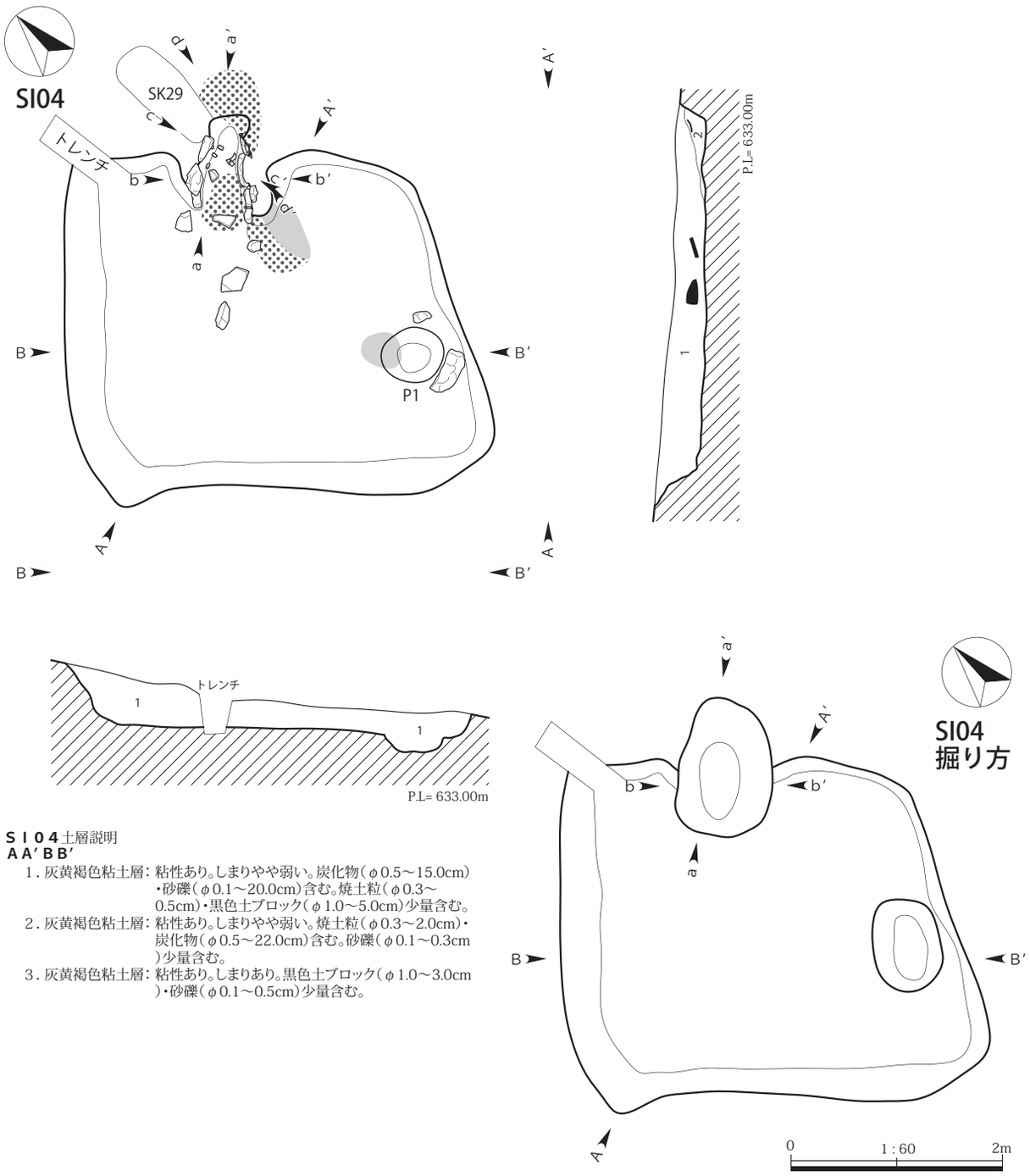


第235図　SI03実測図・遺物出土状況図（1/60）

示した。　**備考**　便宜上住居として扱ったが、カマドなどの施設を伴わず壁や床面も不明瞭であるため、住居ではない可能性がある。帰属時期は、出土遺物から９世紀後半から 10 世紀後半頃と考えられる。



第236図　SI03出土遺物実測図（1/3・1/4）



ＳＩ０４土層説明
ＡＡ′ＢＢ′

1．灰黄褐色粘土層：粘性あり。しまりやや弱い。炭化物（φ0.5～15.0cm）・砂礫（φ0.1～20.0cm）含む。焼土粒（φ0.3～0.5cm）・黒色土ブロック（φ1.0～5.0cm）少量含む。
2．灰黄褐色粘土層：粘性あり。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.3～2.0cm）・炭化物（φ0.5～22.0cm）含む。砂礫（φ0.1～0.3cm）少量含む。
3．灰黄褐色粘土層：粘性あり。しまりあり。黒色土ブロック（φ1.0～3.0cm）・砂礫（φ0.1～0.5cm）少量含む。

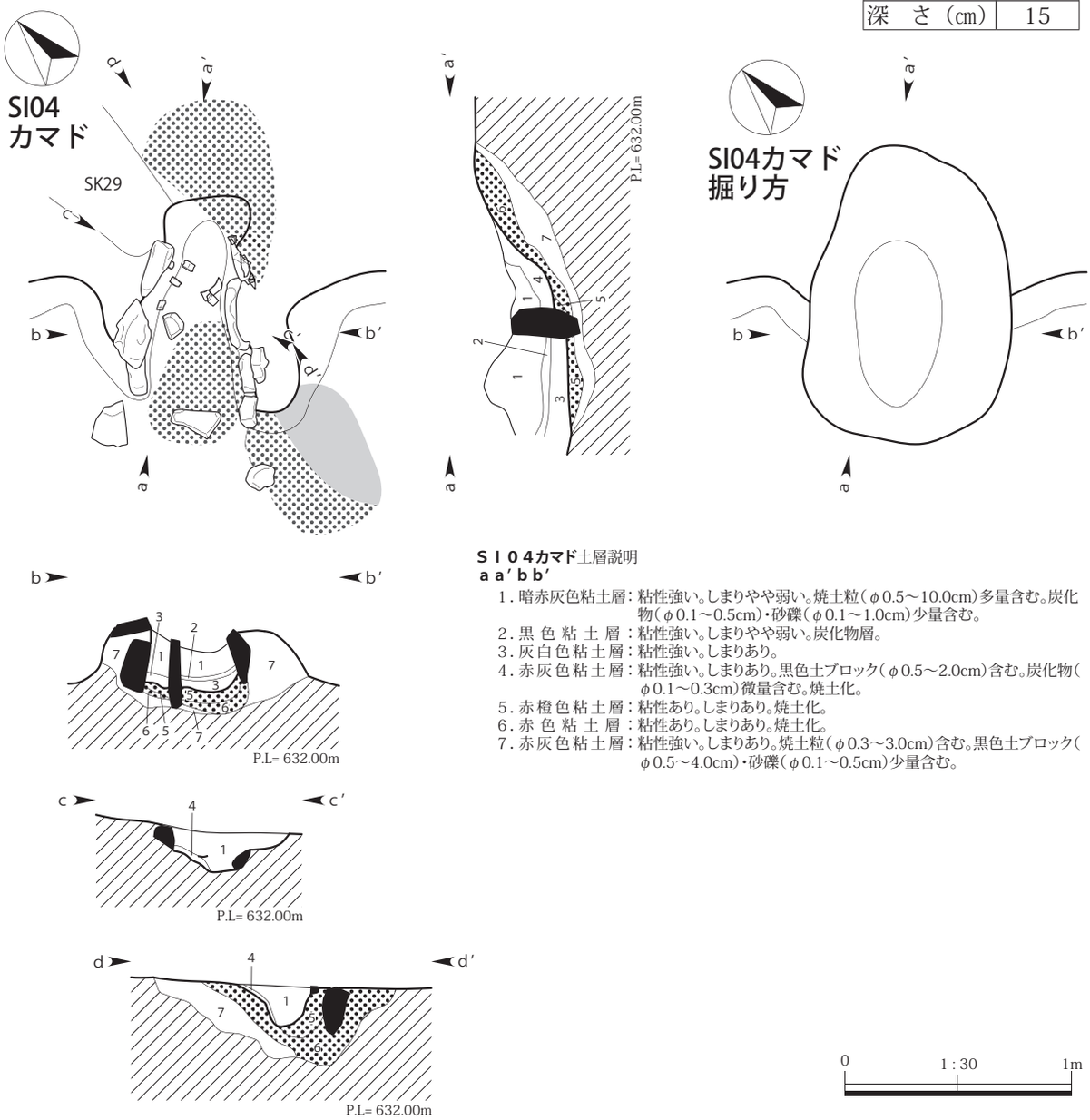
第237図　SI04・掘り方実測図（1/60）

SI04（第 237 ～ 240 図／第 35・37・38 表／ＰＬ 31・33・34）

位置　1 － 80 区Ｐ－９　**重複関係**　SX08・SK29 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　粘土質の灰黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸 3.28 m、副軸 3.8 m、深さ 45㎝、床面積 9.38㎡。　**主軸方位**　Ｎ－ 38 °－Ｅ　**壁・壁溝**　壁高は北壁 25㎝、南壁 36㎝、西壁 40㎝、東壁 19㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　直床式で、踏み締りは確認されなかった。概ね平坦である。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　北壁ほぼ中央に位置し、遺存状態は良好である。全長 108㎝、最大幅 40㎝、火床面は 14㎝掘り込まれ、焼土部分は 11㎝の厚さを有する。支持材は切り石が用いられる。　**その他の施設**　Ｐ１を確認した。形態から貯蔵穴の可能性が考えられる。　**遺物出土状況**　カマド周辺を中心にコの字状口縁甕、須恵器杯椀類などが出土した。　**遺物**　出土遺物のうち、土師器甕９点と須恵器の杯椀類４点の計 13 点を図示した。　**備考**　本遺構は小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から９世紀後半頃と考えられる。

第 35 表　SI04 ピット計測表

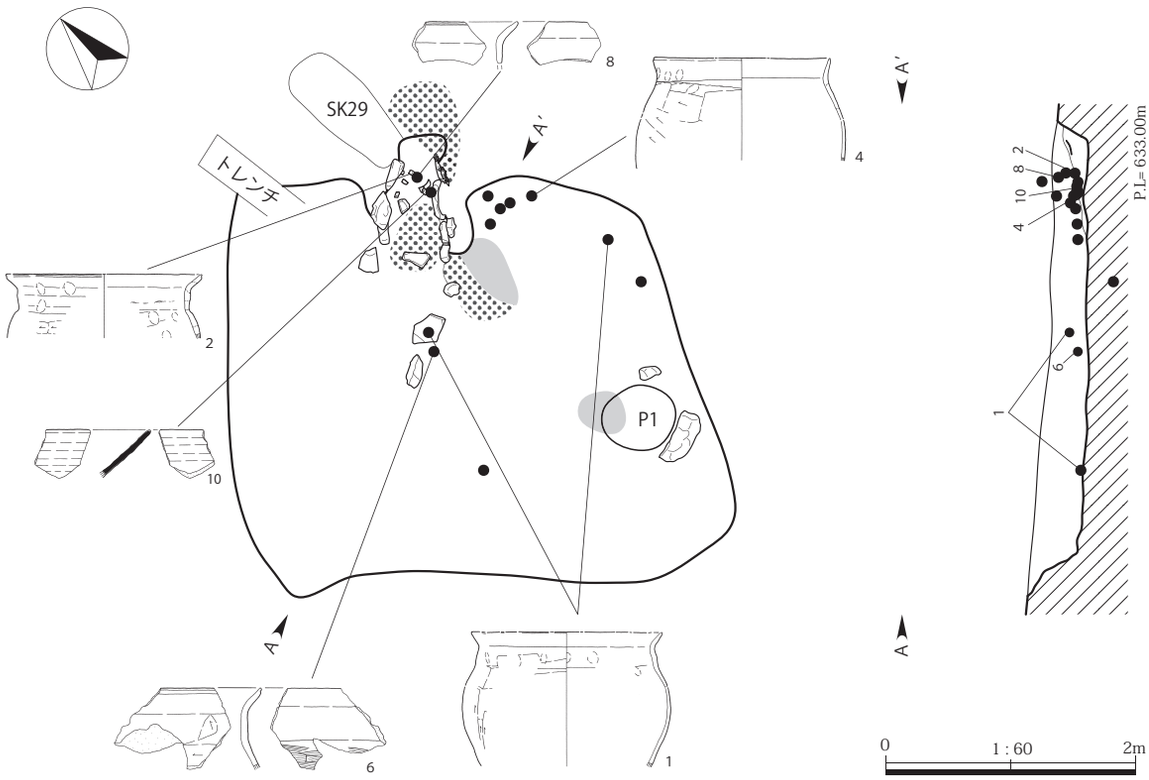
	P1
長軸長（㎝）	60
短軸長（㎝）	50
深　さ（㎝）	15



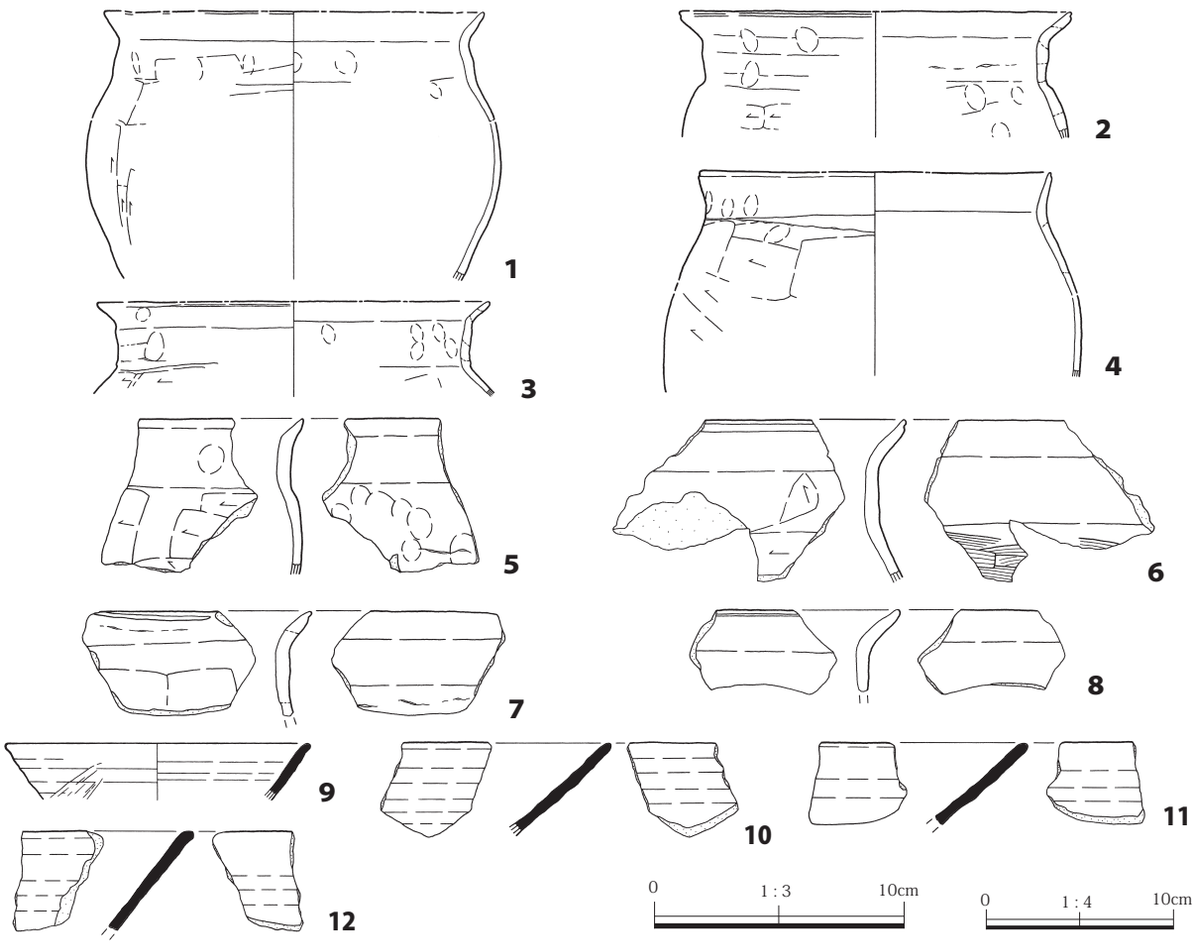
ＳＩ０４カマド土層説明
ａａ′ｂｂ′

1．暗赤灰色粘土層：粘性強い。しまりやや弱い。焼土粒（φ0.5～10.0cm）多量含む。炭化物（φ0.1～0.5cm）・砂礫（φ0.1～1.0cm）少量含む。
2．黒 色 粘 土 層：粘性強い。しまりやや弱い。炭化物層。
3．灰白色粘土層：粘性強い。しまりあり。
4．赤灰色粘土層：粘性強い。しまりあり。黒色土ブロック（φ0.5～2.0cm）含む。炭化物（φ0.1～0.3cm）微量含む。焼土化。
5．赤橙色粘土層：粘性あり。しまりあり。焼土化。
6．赤 色 粘 土 層：粘性あり。しまりあり。焼土化。
7．赤灰色粘土層：粘性強い。しまりあり。焼土粒（φ0.3～3.0cm）含む。黒色土ブロック（φ0.5～4.0cm）・砂礫（φ0.1～0.5cm）少量含む。

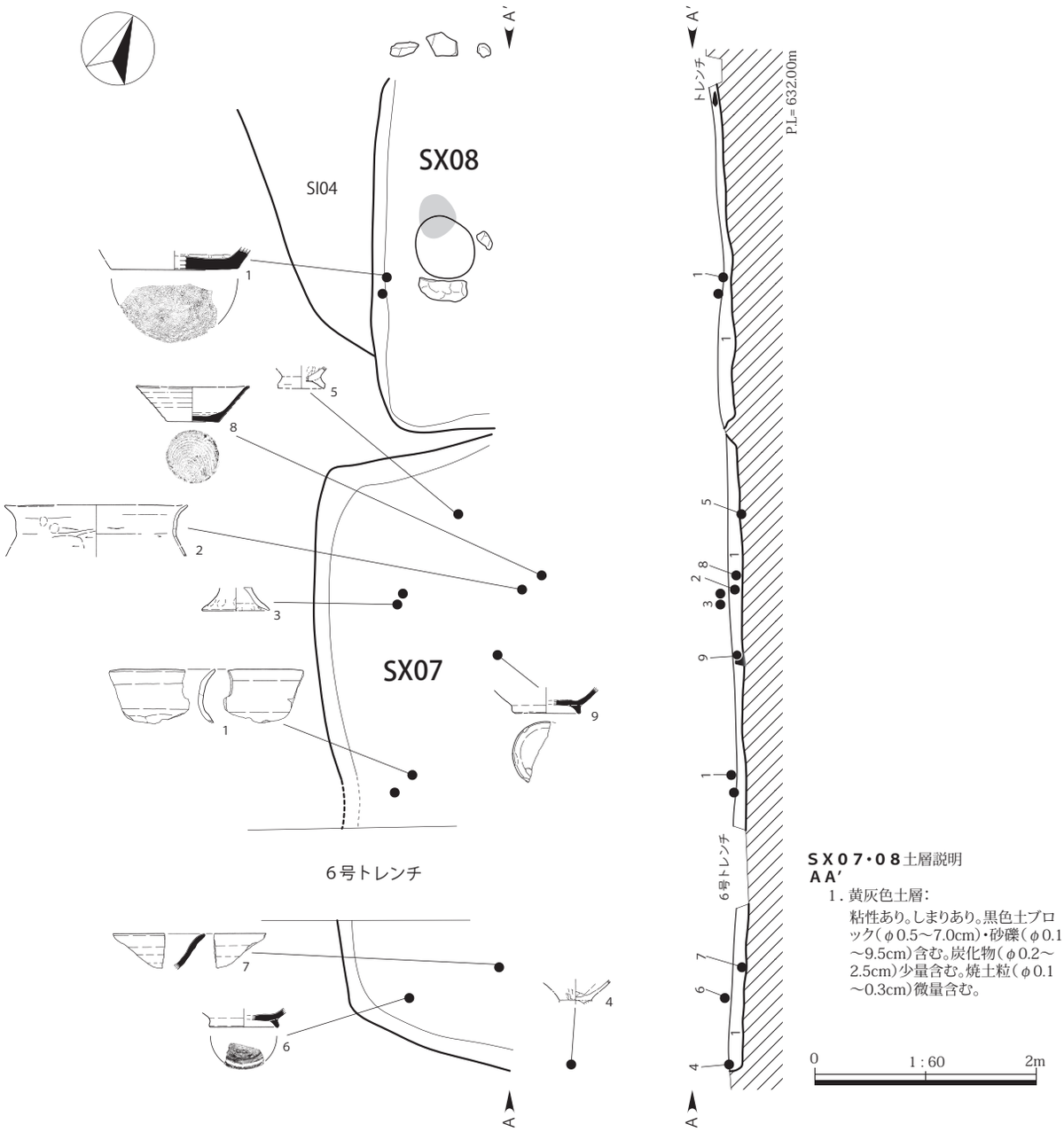
第238図　SI04カマド・カマド掘り方実測図（1/30）



第239図　SI04遺物出土状況図（1/60）



第240図　SI04出土遺物実測図（1/3・1/4）



第241図　SX07・08実測図・遺物出土状況図（1/60）

（2）竪穴状遺構

SX07（第241・242図／第38表／ＰＬ31・34）

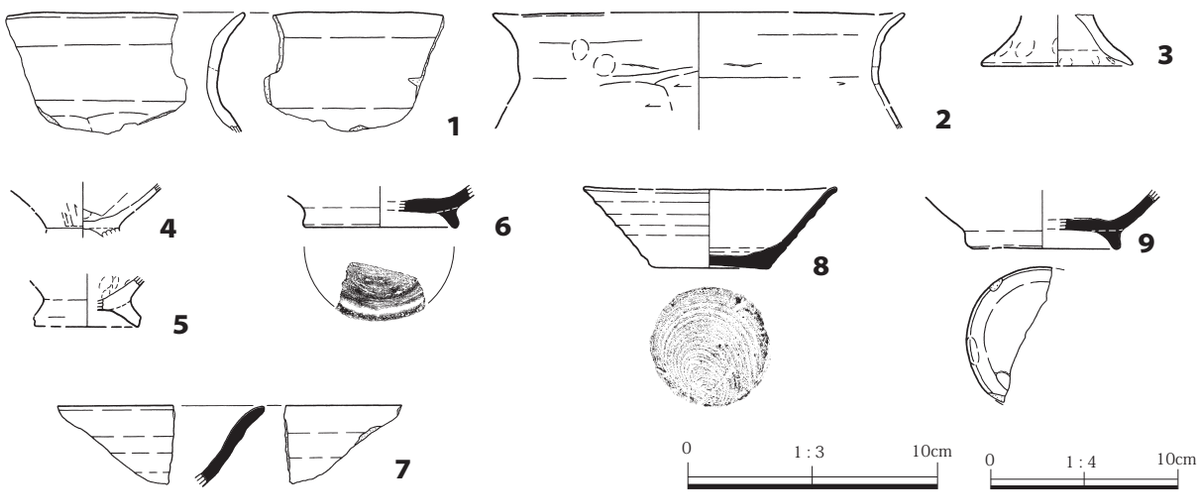
位置　1－80区Q－11　**重複関係**　SX09と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　東部3分の2程度は削平されたと考えられ、現存しない。　**覆土**　黄灰色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸5.66 m、副軸1.48 m以上、深さ13㎝、床面積2.89㎡。　**主軸方位**　N－25°－W　**壁・壁溝**　壁高は北壁9㎝、南壁12㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　須恵器の杯椀類4点に、土師器甕・台付甕を含む土師器片が64点出土した。調査時点ではSU02の遺物番号を付して取り上げたものも、出土位置から本遺構に伴うと考えられるものは本項に含めた。　**遺物**　土師器甕2点、土師器台付甕3点、須恵器杯椀類4点を図示した。

備考　カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴状遺構とした。帰属時期は、

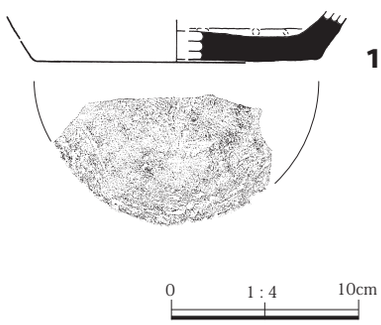
出土遺物から９世紀頃と考えられる。

SX08（第 241・243 図／第 38 表／ＰＬ 32・34）

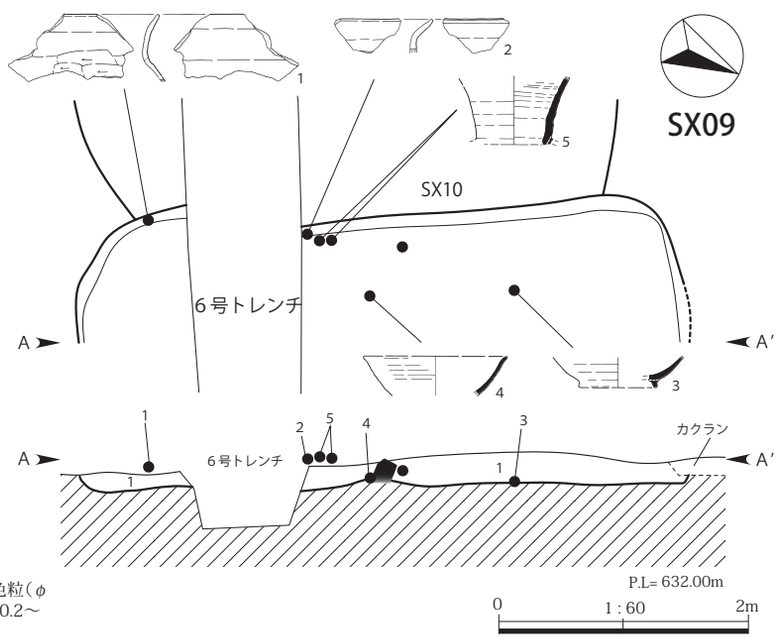
位置　１－80 区Ｐ－９　**重複関係**　SI04 と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　東部３分の２程度は削平されたと考えられ、現存しない。　**覆土**　黄灰色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸 3.14 m以上、副軸 1.1 m以上、深さ 15㎝、床面積 2.58㎡。　**主軸方位**　Ｎ－24°－Ｗ　**壁・壁溝**　壁高は南壁 10㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　器種不明の土師器片 25 点、鉢を含む須恵器片３点、灰釉陶器片１点が出土している。　**遺物**　須恵器鉢１点を図示した。　**備考**　カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴状遺構とした。帰属時期は、出土遺物から平安時代と考えられる。



第242図　SX07出土遺物実測図（1/3・1/4）



第243図　SX08出土遺物実測図（1/4）

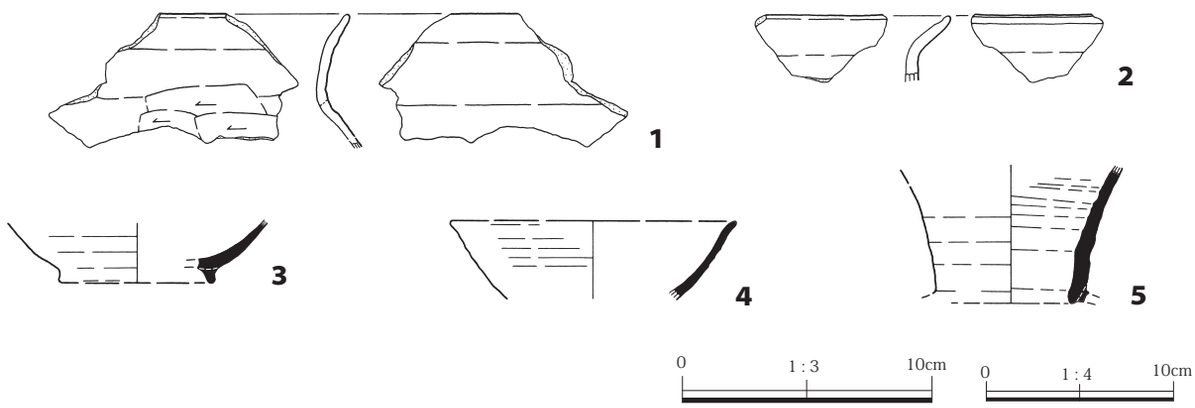


ＳＸ０９土層説明
ＡＡ′
1．暗灰黄色粘土層：粘性あり。しまり弱い。白色粒（φ0.2～2.0cm）・炭化物（φ0.2～2.0cm）微量含む。

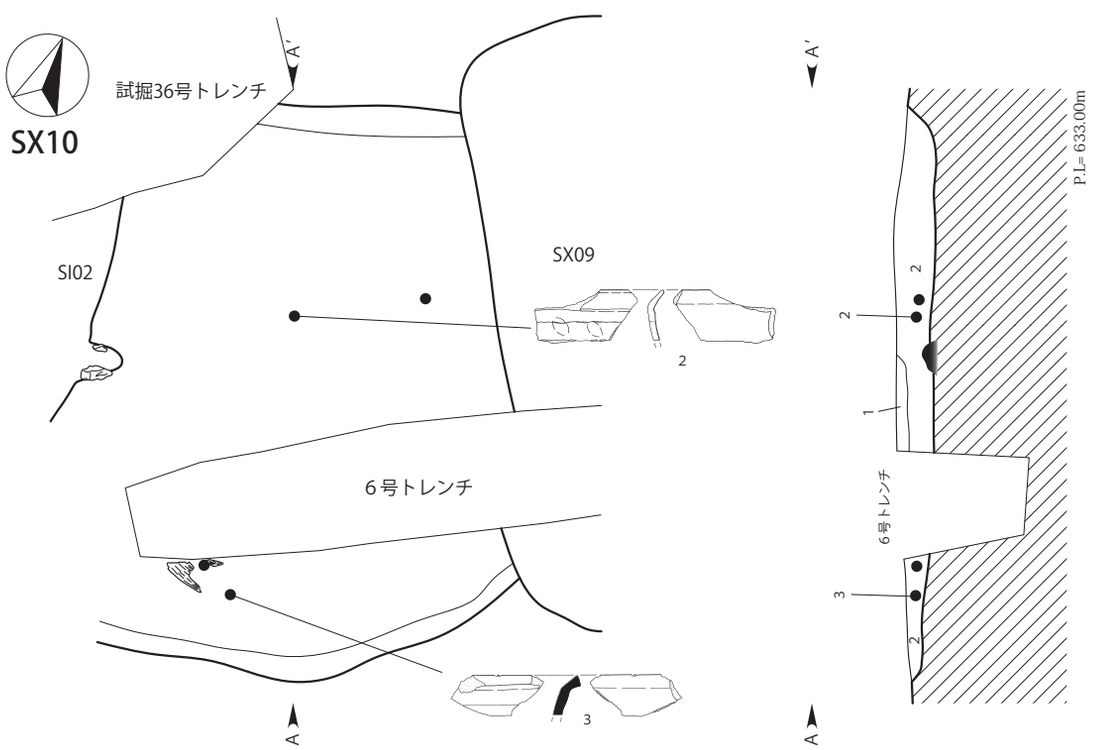
第244図　SX09実測図・遺物出土状況図（1/60）

SX09（第 244・245 図／第 38 表／ＰＬ 32・34）

位置　1－80 区Ｐ－10　**重複関係**　SX07・10 と重複し、SX07 より古く、SX10 より新しい。　**遺存状態**　東半分は SX07 に壊され現存しない。　**覆土**　暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は主軸 4.88 m、副軸 0.95 m以上、深さ 24㎝、床面積 3.56㎡。　**主軸方位**　N－29°－W　**壁・壁溝**　壁高は北壁 16㎝、南壁 14㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　コの字状口縁甕を含む土師器片 35 点、椀・長頸瓶などの須恵器３点が出土した。　**遺物**　土師器甕２点、須恵器の杯椀類２点と長頸瓶１点を図示した。　**備考**　カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴状遺構とした。帰属時期は、出土遺物から９世紀後半と考えられる。



第245図　SX09出土遺物実測図（1/3・1/4）

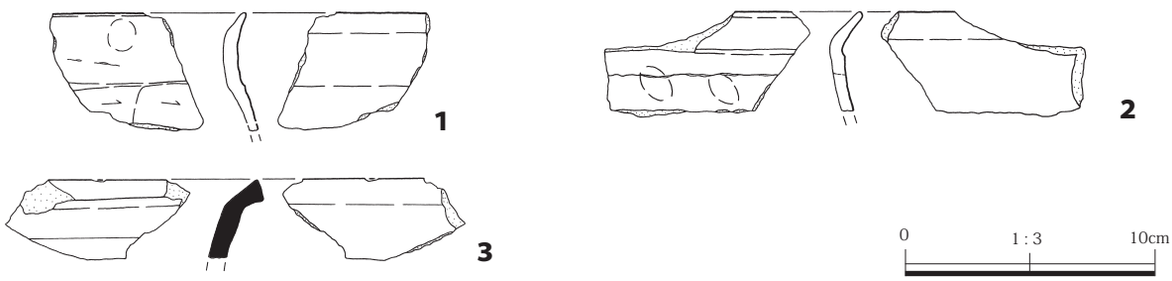


ＳＸ１０土層説明
ＡＡ'
1．暗灰黄色粘土層：粘性あり。しまり弱い。白色粒（φ0.2～2.0cm）・炭化物（φ0.2～2.0cm）微量含む。
2．黒褐色粘土層：粘性あり。しまりやや弱い。白色粒（φ0.2～3.0cm）微量含む。

第246図　SX10実測図・遺物出土状況図（1/60）

SX10（第 246・247 図／第 38 表／ＰＬ 32・34）

位置　1－80 区Ｐ－11　**重複関係**　SX09 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　東側を SX09 に壊される。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　遺存状態が悪く平面形は不明である。規模は主軸 4.58 m、副軸 3.2 m以上、深さ 33㎝、床面積 8.3㎡。　**主軸方位**　N－22°－W　**壁・壁溝**　壁高は北壁 21㎝、南壁 8㎝。外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。　**床面**　踏み締りや貼床などは認められなかった。　**柱穴**　確認されなかった。　**カマド**　確認されなかった。　**その他の施設**　確認されなかった。　**遺物出土状況**　コの字状口縁甕を含む土師器片 56 点、瓶を含む須恵器片 3 点が出土した。　**遺物**　土師器甕 2 点、須恵器瓶 1 点を図示した。　**備考**　カマドやその他の施設が確認されず、住居と断定できなかったため竪穴状遺構とした。帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半から 10 世紀前半と考えられる。



第247図　SX10出土遺物実測図（1/3）

（3）遺物集中

SI01 の南、黒色土中で平安時代の遺物がまとまって出土したため、遺物集中として調査を進めた。その後、竪穴住居跡の可能性を考え、トレンチを入れて確認したが、遺構は確認されなかったため、当初の通り遺物集中として扱った。

1号遺物集中（SU01）（第 248・250 図／第 38 表／ＰＬ 34）

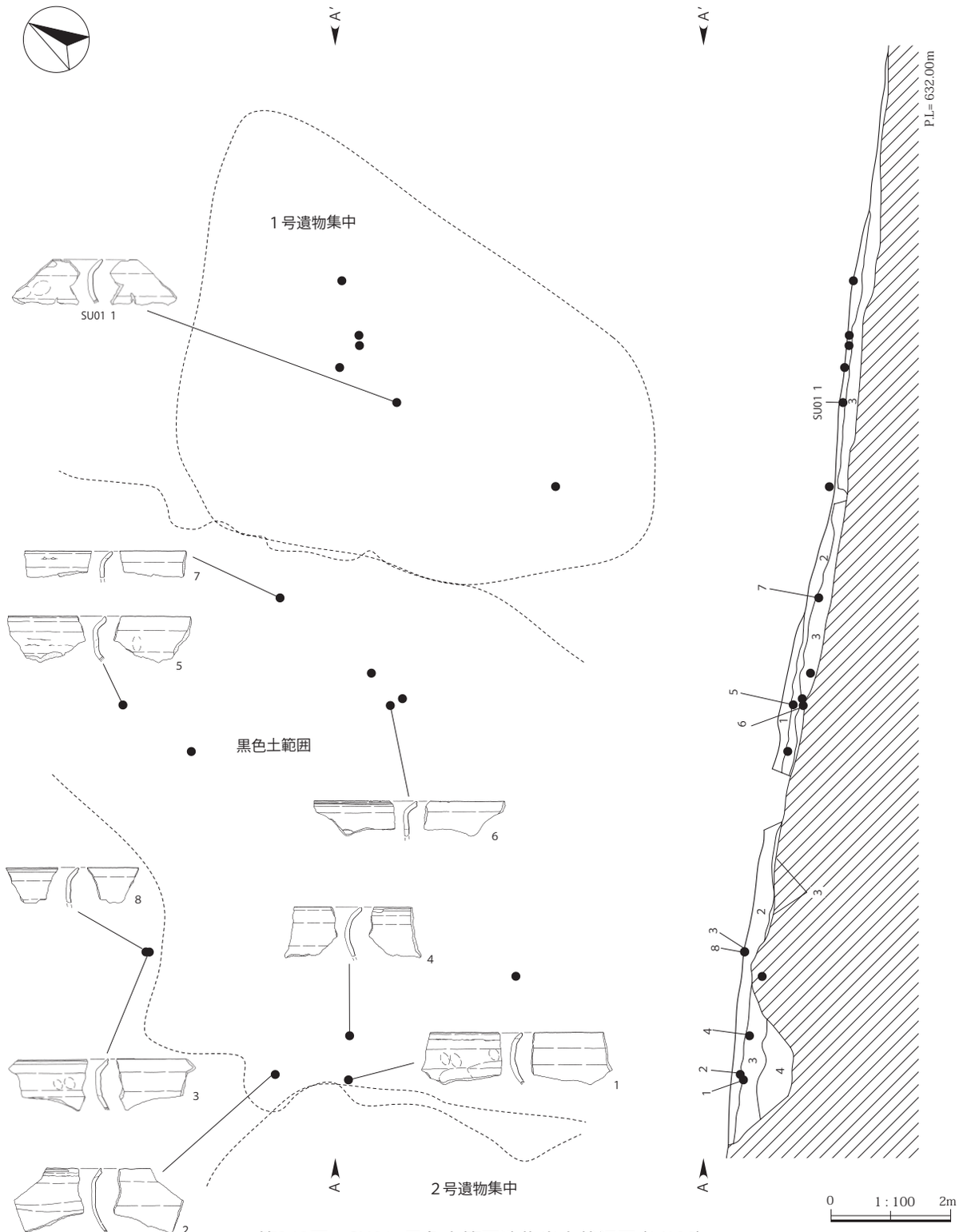
位置　1－80 区Ｓ－9　**重複関係**　なし。　**規模**　幅 5.92 m、長さ 8.0 mの範囲である。　**遺物出土状況**　土師器片 122 点、須恵器片 5 点が出土したが、ほとんどが器種不明の小破片であった。出土遺物のうち、遺存状態の良い土師器甕 1 点を選び図示した。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から 9 世紀頃と考えられる。

2号遺物集中（SU02）（第 249・251 図／第 38 表／ＰＬ 34）

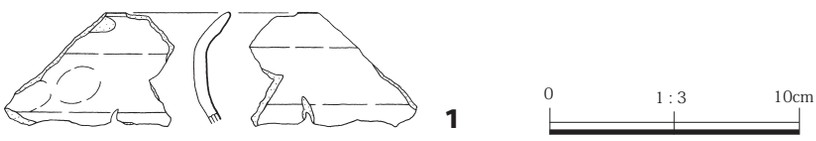
位置　1－80 区Ｑ－10　**重複関係**　なし。　**規模**　幅 5.72 m、長さ 8.3 mの範囲である。　**遺物出土状況**　土師器片 128 点、須恵器片 2 点、灰釉陶器 1 点が出土したが、ほとんどが器種不明の小破片であった。出土遺物のうち、遺存状態の良い土師器の甕・椀各 1 点、灰釉陶器碗 1 点を図示した。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半から 10 世紀前半頃と考えられる。

黒色土範囲（第 252 ～ 253 図／第 38 表／ＰＬ 34）

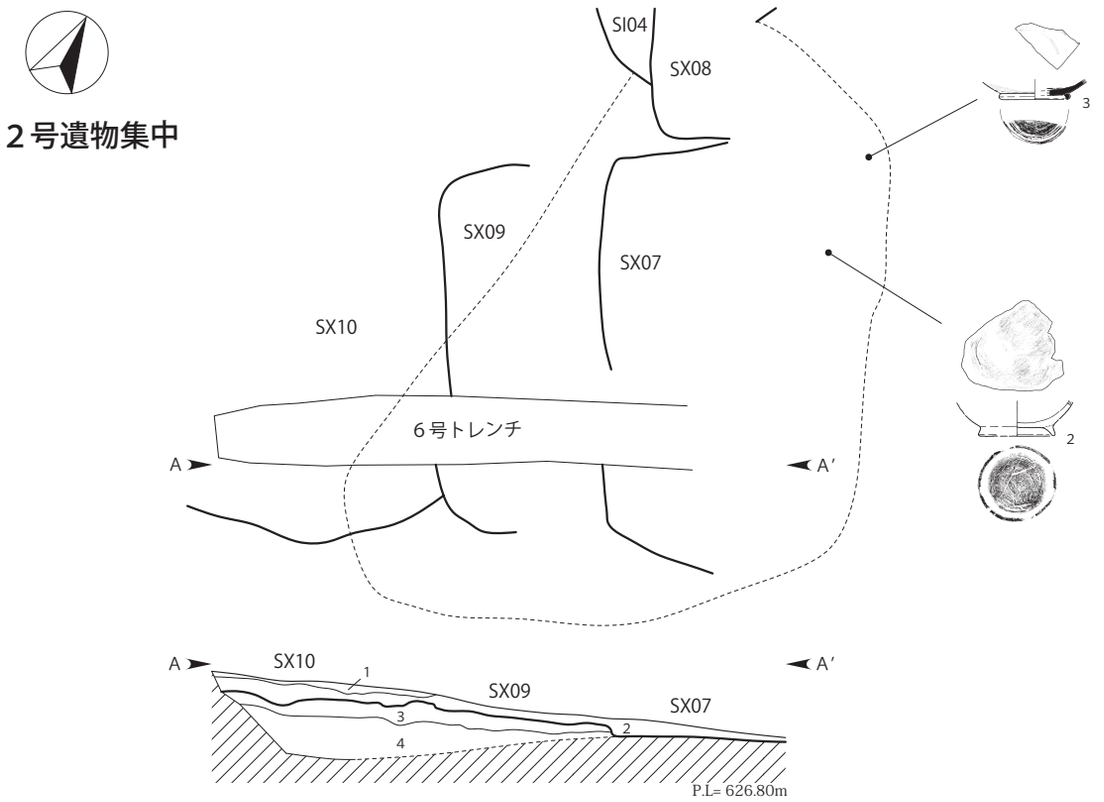
位置　1－80 区Ｒ－9　**重複関係**　なし。　**規模**　幅 2.1 m、長さ 3.5 mの範囲である。　**遺物出土状況**　土師器片 209 点、須恵器片 5 点、灰釉陶器 1 点が出土したが、ほとんどが器種不明の小破片であった。出土遺物のうち、遺存状態の良い土師器の甕の口縁部片 9 点を図示した。いずれもコの字状口縁甕である。　**備考**　帰属時期は、出土遺物から 9 世紀後半頃と考えられる。



第248図　SU01・黒色土範囲遺物出土状況図（1/100）



第249図　SU01出土遺物実測図（1/3）

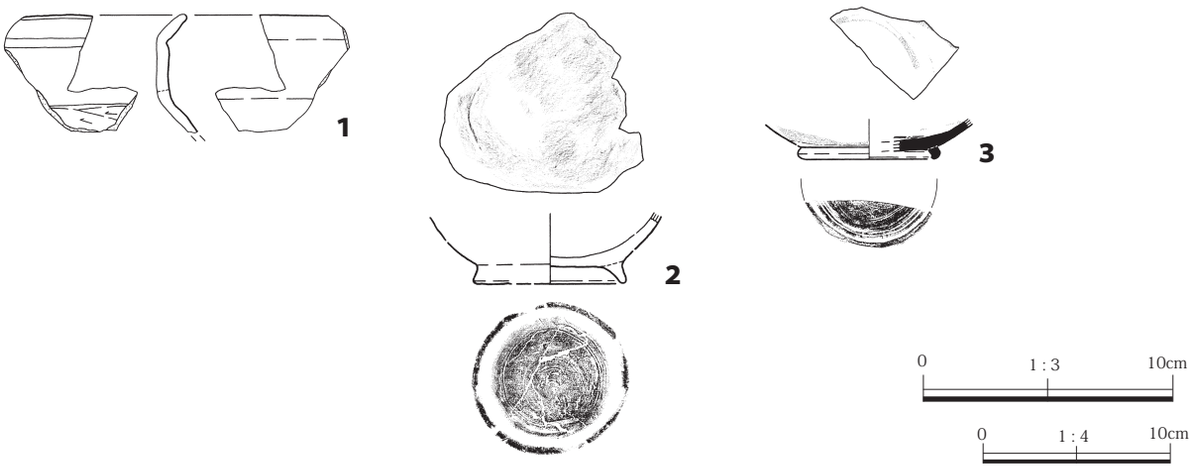


2号遺物集中土層説明
AA′

1．暗オリーブ褐色粘土層：粘性あり。しまり弱い。YPk（φ0.3～1.5cm）微量含む。
2．黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまり弱い。炭化物（φ0.2～2.5cm）少量含む。YPk（φ0.2～1.0 cm）微量含む。
3．暗 灰 黄 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまり弱い。白色粒（φ0.2～2.0cm）・炭化物（φ0.2～2.0cm）微量含む。
4．黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまりやや弱い。白色粒（φ0.2～3.0cm）微量含む。

0　1：100　2m

第250図　SU02実測図・遺物出土状況図（1/100）

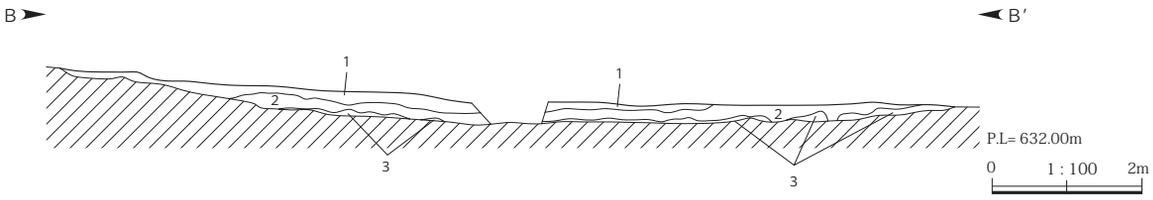


第251図　SU02出土遺物実測図（1/3・1/4）

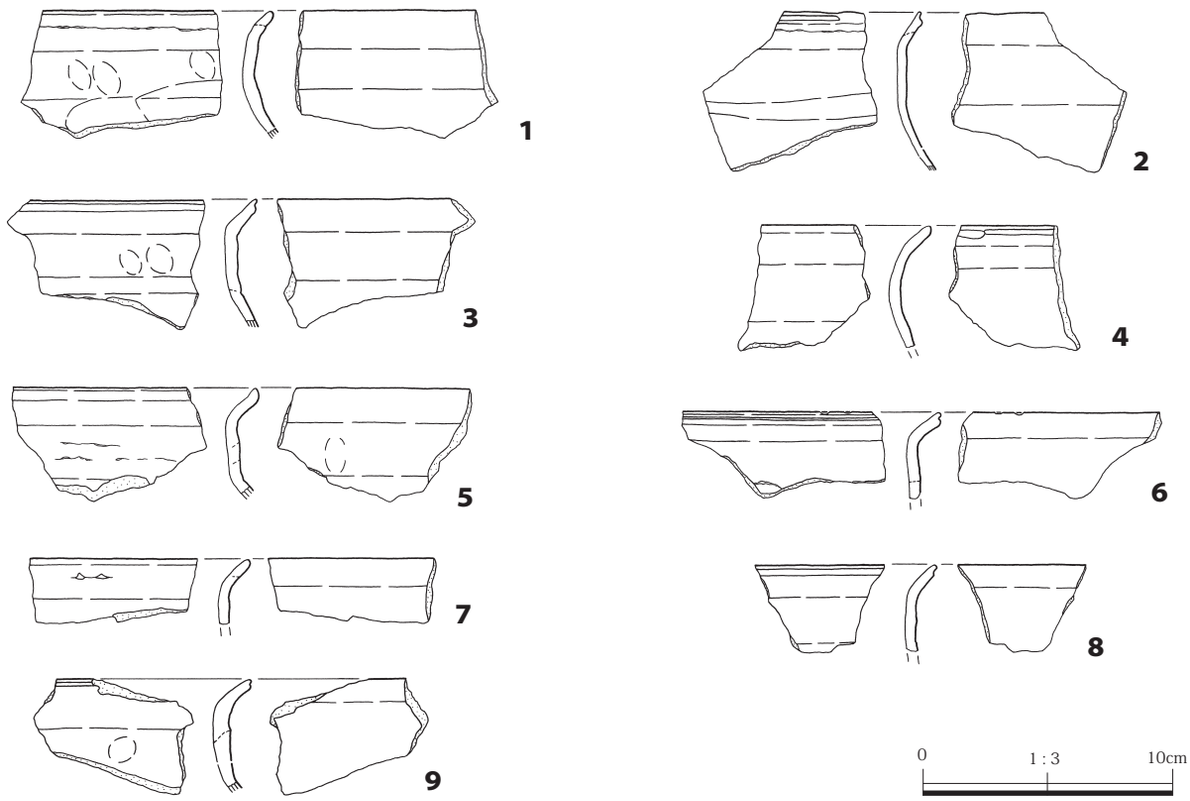
黒色土範囲土層説明
AA′BB′

1．黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまり弱い。炭化物（φ0.5～2.0cm）微量含む。
2．黒 褐 色 粘 土 層 ：粘性あり。しまりやや弱い。炭化物（φ0.3～1.0cm）微量含む。
3．暗 灰 黄 色 粘 土 層：粘性あり。しまり弱い。白色粒（φ0.2～1.5cm）・炭化物（φ0.2～1.0cm）微量含む。
4．オリーブ黒色粘土層：粘性あり。しまり弱い。ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・白色粒（φ0.2～1.0cm）微量含む。

第252図　黒色土範囲実測図（1/100）



第253図　黒色土範囲断面図（1/100）



第254図　黒色土範囲出土遺物実測図（1/3）

第４節　時期不明の遺構と遺物

（１）土坑

形態に特徴がなく、時期を特定し得る出土遺物がないことから帰属時期は不明である。

SK01（第 255 図）

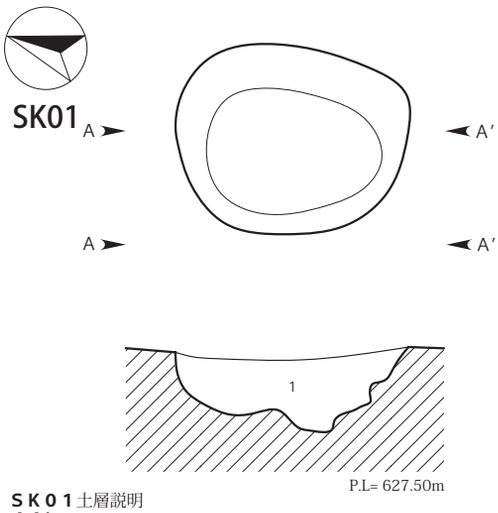
位置　２－61 区Ａ－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 92㎝、短軸 76㎝、深さ 30㎝。　**主軸方位**　Ｎ－３°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸がある。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK02（第 255 図）

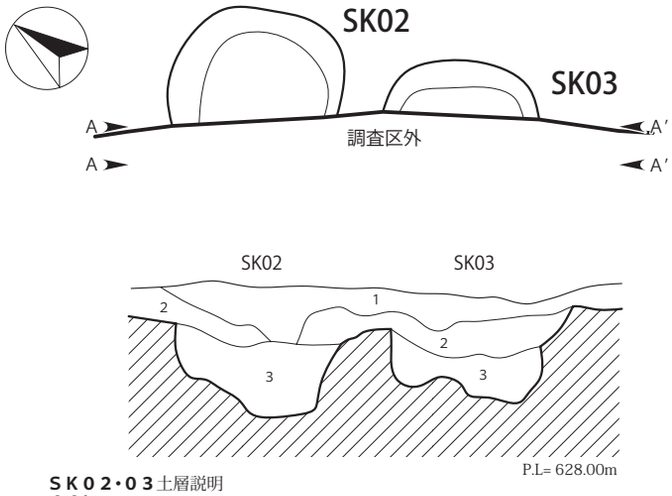
位置　１－70 区Ｔ－18　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南西部が調査区外となるが、概ね良好である。　**覆土**　黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 70㎝、短軸 44㎝以上、深さ 52㎝。　**主軸方位**　Ｎ－37°－Ｗ　**壁面**　北西壁は階段状に、南東壁は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK03（第 255 図）

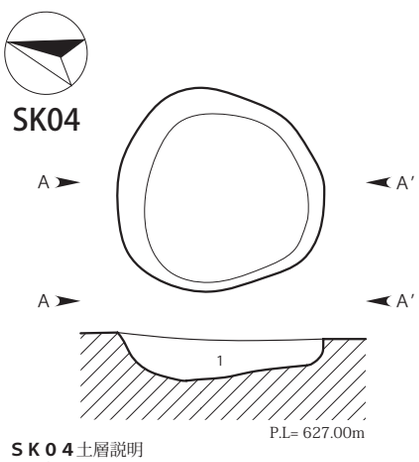
位置　１－70 区Ｔ－18　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南西部が調査区外となるが、概ね良好である。　**覆土**　上層は暗灰黄色土、下層は黄褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 56㎝、短軸 20㎝以上、深さ 40㎝。　**主軸方位**　Ｎ－33°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸がある。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。



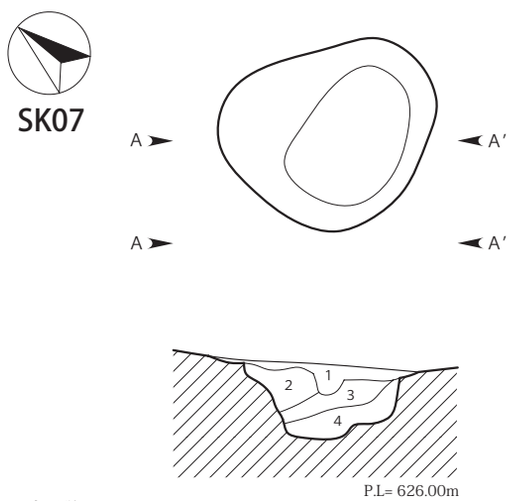
ＳＫ０１土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。



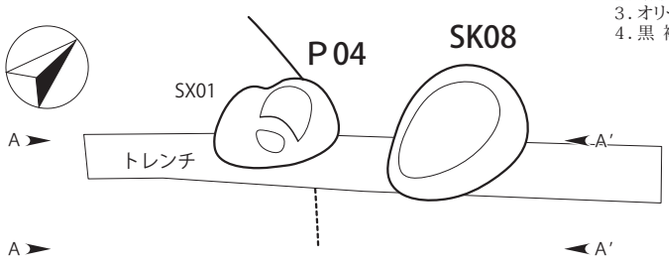
ＳＫ０２・０３土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりやや弱い。黄色粒（φ0.1～1.0cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。
3．黄 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。

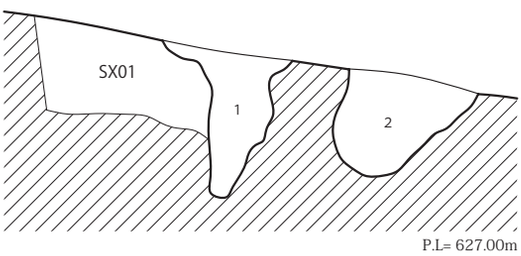


ＳＫ０４土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。白色土ブロック（φ0.5～4.0cm）少量含む。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。



ＳＫ０７土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。
2．暗 灰 黄 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。
3．オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。
4．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.3cm）微量含む。





ＳＫ０８・Ｐ０４土層説明
ＡＡ′
1．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。
2．暗オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～0.4cm）微量含む。

0　1：30　1m

第255図　SK01～04・07・08・Ｐ04実測図（1/30）

SK04（第 255 図）

位置　２－71 区Ｃ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 84㎝、短軸 80㎝、深さ 16㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 10°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　北に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK07（第 255 図）

位置　２－61 区Ｃ－19　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　不整円形を呈する。規模は長軸 80㎝、短軸 78㎝、深さ 30㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 19°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸がある。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK08（第 255 図）

位置　１－ 70 区Ｔ－ 16　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　暗オリーブ褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 62㎝、短軸 42㎝、深さ 43㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 10°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央に向かって傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK09（第 256 図）

位置　２－71 区Ｂ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸方形を呈する。規模は長軸 86㎝、短軸 85㎝、深さ 10㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 77°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK10（第 256 図）

位置　２－71 区Ｂ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 82㎝、短軸 82㎝、深さ 16㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 22°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央に向かって緩やかに傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK11（第 256 図）

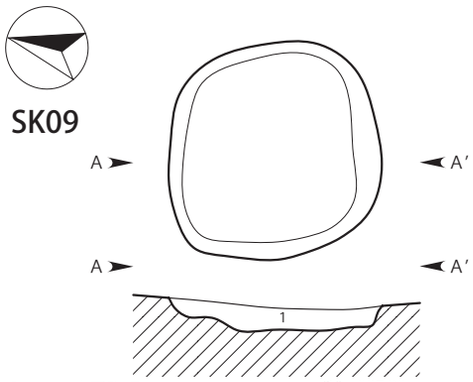
位置　２－71 区Ｂ－１　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 76㎝、短軸 76㎝、深さ 13㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 11°－Ｗ　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　やや凹凸があり、中央に向かって傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK12（第 256 図）

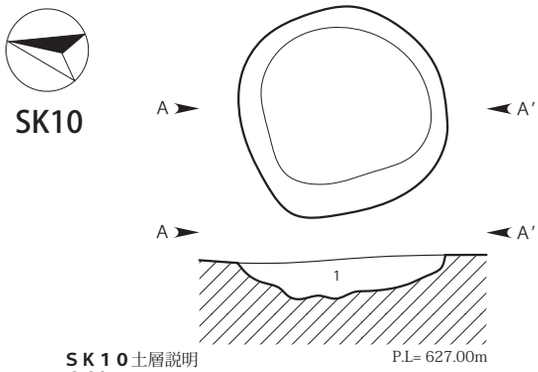
位置　２－ 71 区Ｃ－１　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 85㎝、短軸 82㎝、深さ 7㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 15°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK14（第 256 図／ＰＬ 32）

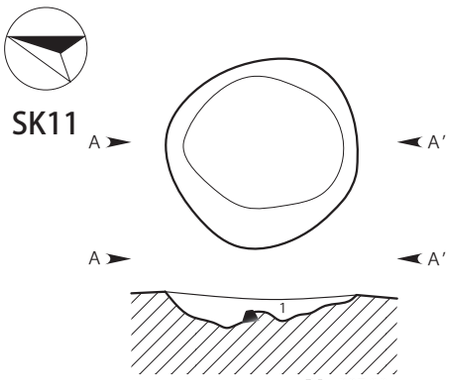
位置　２－ 71 区Ｂ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒褐色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　円形を呈する。規模は長軸 96㎝、短軸 80㎝、深さ 31㎝。　**主軸方位**　Ｎ－ 7°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　北に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。



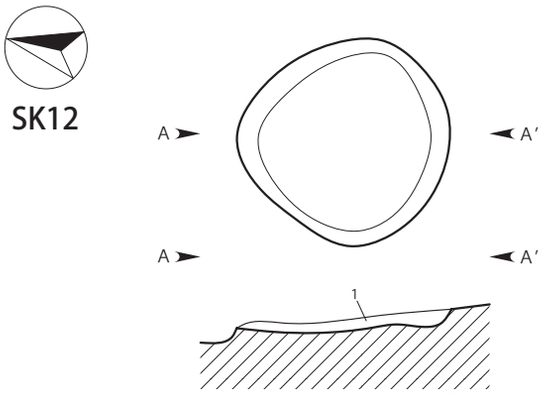
ＳＫ０９土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～1.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）微量含む。



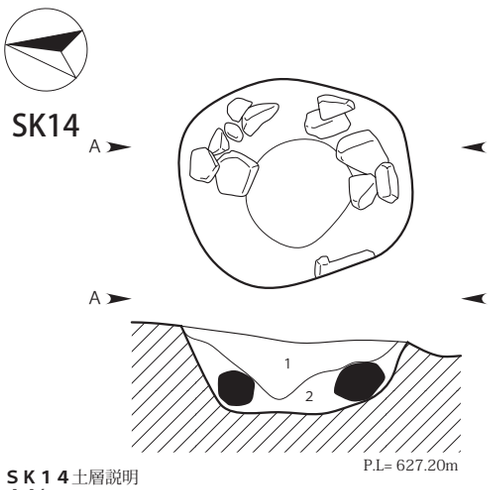
ＳＫ１０土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ロームブロック（φ0.5～5.0cm）・黄色粒（φ0.1～1.5cm）微量含む。



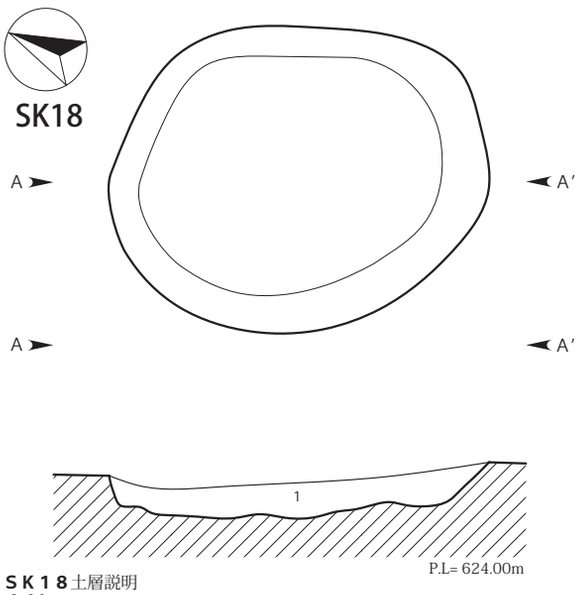
ＳＫ１１土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。黄色粒（φ0.1～1.5cm）少量含む。ロームブロック（φ0.5～4.0cm）微量含む。



ＳＫ１２土層説明
ＡＡ′
1．黒色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～5.5cm）・黄色粒（φ0.1～1.0cm）少量含む。



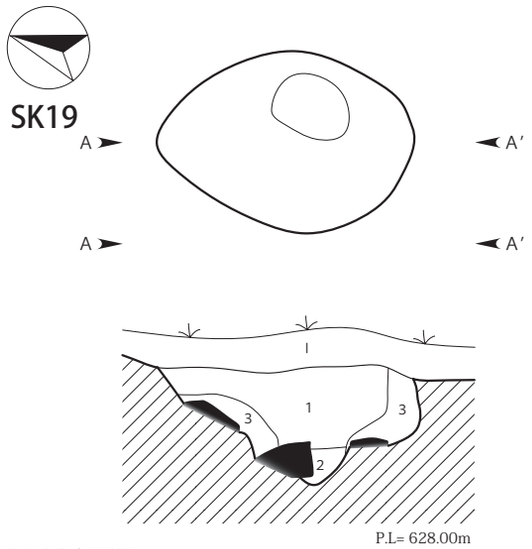
ＳＫ１４土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性あり。しまりあり。砂礫（φ0.5～15.0cm）多量含む。YPk（φ0.2～1.5cm）・褐色粒（φ0.1～0.4cm）含む。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～0.8cm）・炭化物（φ0.1～0.5cm）微量含む。
2．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。砂礫（φ2.0～22.0cm）多量含む。ローム粒（φ0.05～0.2cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。



ＳＫ１８土層説明
ＡＡ′
1．黒色土層：粘性あり。しまりあり。褐色粒（φ0.1～0.3cm）・砂礫（φ0.1～0.7cm）含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

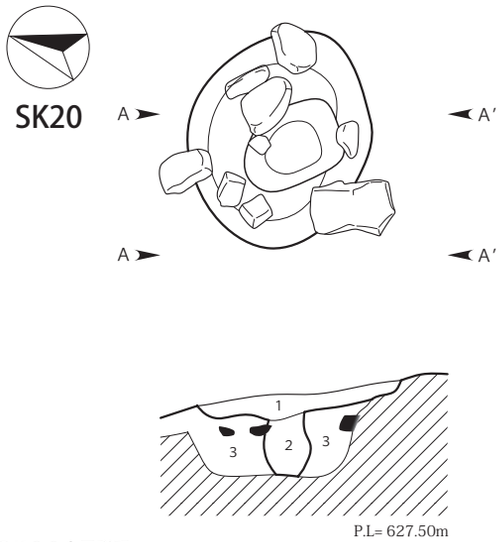
0　1：30　1m

第256図　SK09～12・14・18実測図（1/30）



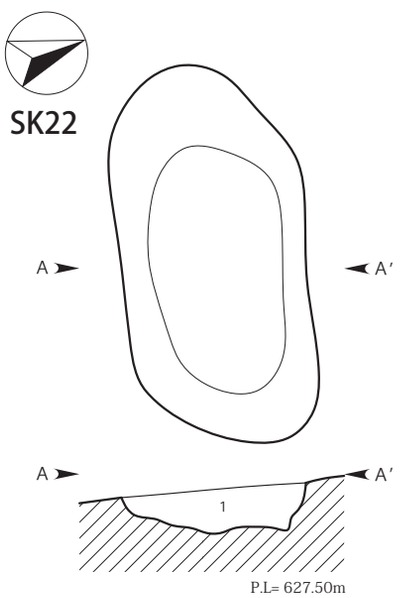
ＳＫ１９土層説明
ＡＡ′

Ⅰ．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。砂礫（φ0.1～1.5cm）微量含む。
1．黒色土層：粘性あり。しまり弱い。褐色粒（φ0.05～0.3cm）含む。砂礫（φ0.1～2.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。
2．黄灰色土層：粘性あり。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ0.5～4.0cm）含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒（φ0.1～0.2cm）・砂礫（φ2.0～30.0cm）多量含む。



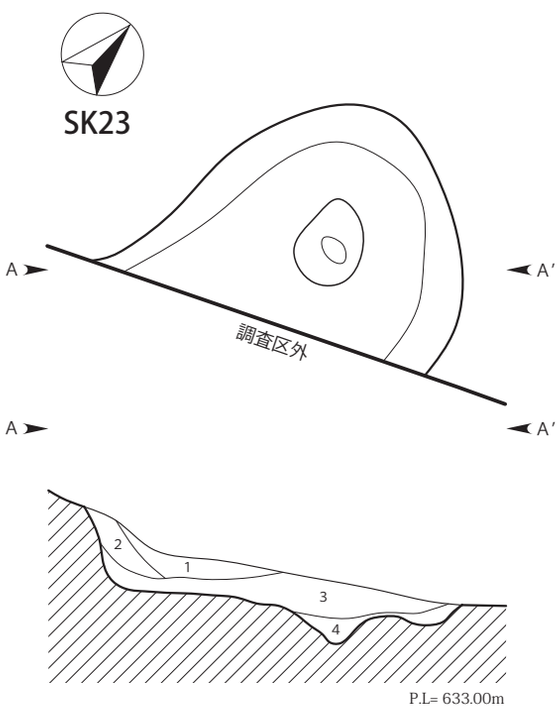
ＳＫ２０土層説明
ＡＡ′

1．黒褐色土層：粘性あり。しまりやや弱い。褐色粒（φ0.1～0.4cm）多量含む。砂礫（φ0.5～15.0cm）含む。ローム粒（φ0.05～0.1cm）・ロームブロック（φ0.5～2.5cm）・YPk（φ0.1～0.4cm）微量含む。
2．黄灰色土層：粘性あり。しまりあり。砂礫（φ0.5～7.0cm）少量含む。褐色粒（φ0.1～0.2cm）微量含む。
3．暗灰黄色土層：粘性弱い。しまりあり。砂礫（φ0.5～13.0cm）含む。ローム粒（φ0.05～0.2cm）・YPk（φ0.1～1.0cm）微量含む。



ＳＫ２２土層説明
ＡＡ′

1．黒色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～4.0cm）・YPk（φ0.2～0.5cm）微量含む。



ＳＫ２３土層説明
ＡＡ′

1．オリーブ黒色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。ロームブロック（φ0.5～2.5cm）・YPk（φ0.2～1.0cm）・炭化物（φ0.2～1.5cm）微量含む。
2．黒褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.1～0.4cm）微量含む。
3．オリーブ黒色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～2.0cm）少量含む。炭化物（φ0.3～2.5cm）微量含む。
4．暗灰黄色粘土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～0.5cm）微量含む。

0　1：30　1m

第257図　SK19・20・22・23実測図（1/30）

SK18（第 256 図）

位置　２－61 区Ｅ－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 152㎝、短軸 112㎝、深さ 14㎝。　**主軸方位**　Ｎ－24°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK19（第 257 図）

位置　２－71 区Ａ－３　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　上層は黒色土、下層は暗灰黄色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　不整楕円形を呈する。規模は長軸 102㎝、短軸 60㎝、深さ 63㎝。　**主軸方位**　Ｎ－17°－Ｗ　**壁面**　北壁は外傾し、南壁はやや内傾して立ち上がる。　**底面**　中央部の窪みに向かって傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK20（第 257 図／ＰＬ 32）

位置　２－71 区Ｂ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 88㎝、短軸 72㎝、深さ 34㎝。　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　柱痕が認められる。

SK22（第 257 図）

位置　２－71 区Ａ－５　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 150㎝、短軸 74㎝、深さ 19㎝。　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　北に向かって傾斜するが、概ね平坦である。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK23（第 257 図）

位置　１－80 区Ｐ－11　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南側が調査区外であるが、概ね良好である。　**覆土**　オリーブ黒色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 122㎝以上、短軸 118㎝、深さ 25㎝。　**主軸方位**　Ｎ－5°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸があり、北東に向かって傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK24（第 258 図／ＰＬ 32）

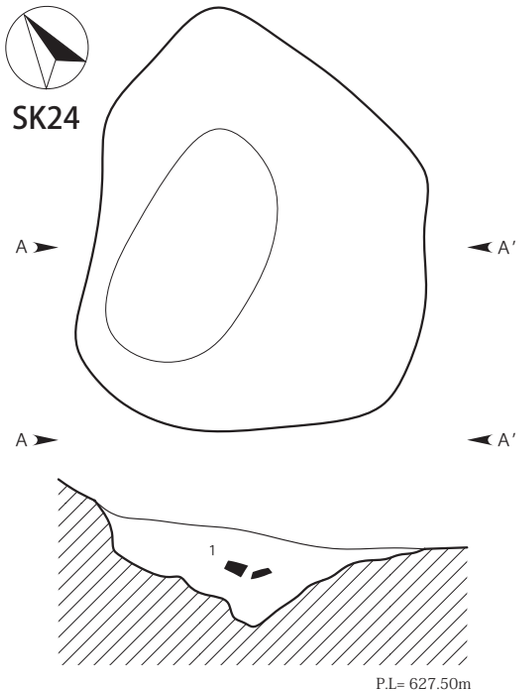
位置　２－71 区Ａ－５　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　不整形を呈する。規模は長軸 170㎝、短軸 133㎝、深さ 37㎝。　**主軸方位**　Ｎ－31°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央部の窪みに向かって傾斜する。　**遺物**　時期不明の土師器片１点と陶磁器片２点が出土したが、図示しなかった。　**備考**　なし。

SK25（第 258 図）

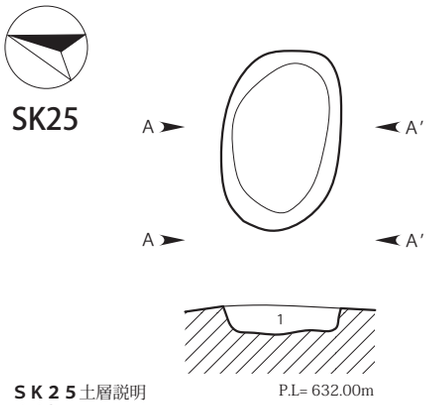
位置　１－80 区Ｑ－11　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 74㎝、短軸 46㎝、深さ 12㎝。　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　平坦である。　**遺物**　土師器片が１点出土したが、図示しなかった。　**備考**　なし。

SK26（第 258 図／ＰＬ 32）

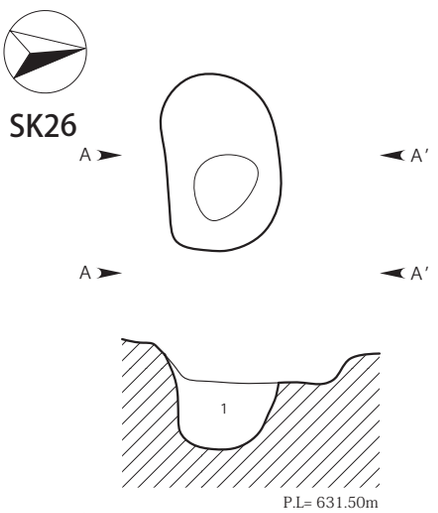
位置　１－80 区Ｑ－10　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 70㎝、短軸 46㎝、深さ 27㎝。　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ



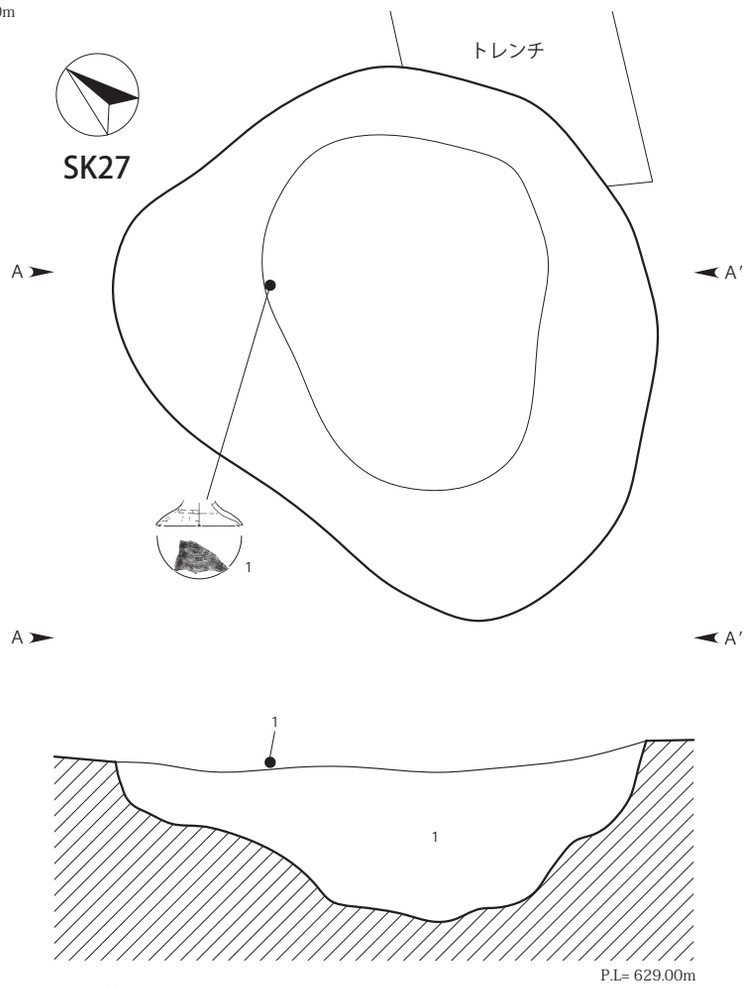
ＳＫ２４土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。白色粒（φ0.1～0.5cm）少量含む。YPk（φ0.2～0.8cm）微量含む。



ＳＫ２５土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色粘土層：粘性弱い。しまりあり。砂礫（φ0.1～5.0cm）多量含む。YPk（φ0.1～0.3cm）微量含む。



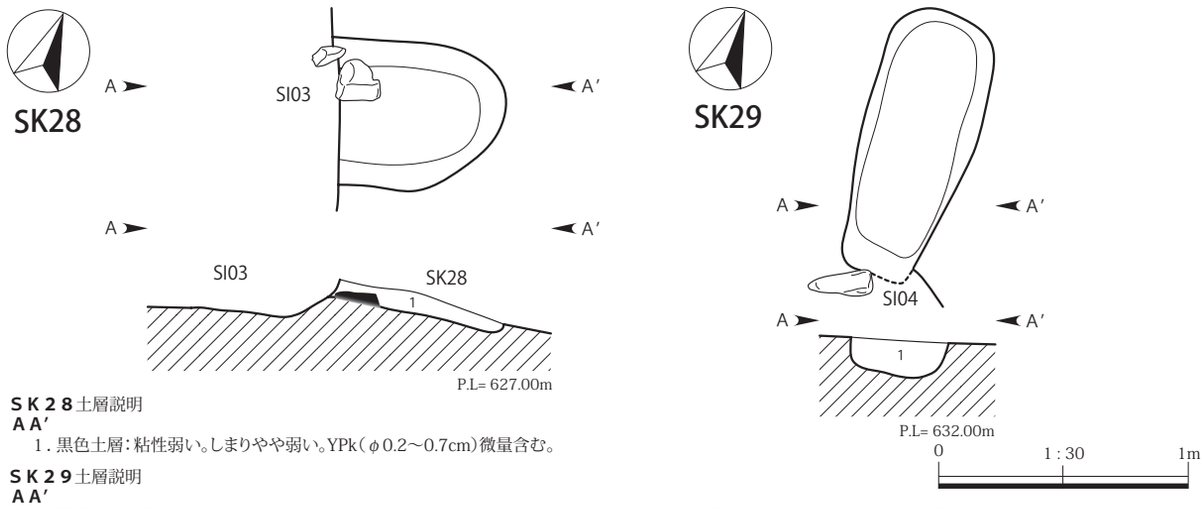
ＳＫ２６土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色粘土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～0.5cm）微量含む。



ＳＫ２７土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk（φ0.1～0.3cm）・白色粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。

0　1：30　1m

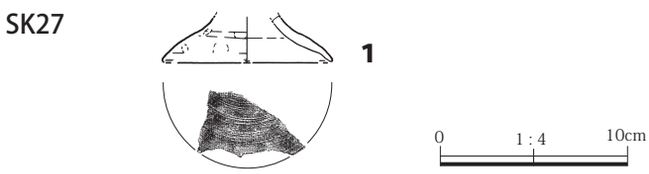
第258図　SK24～27実測図（1/30）



ＳＫ２８土層説明
ＡＡ′
1．黒色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～0.7cm）微量含む。

ＳＫ２９土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色粘土層：粘性あり。しまりあり。砂礫（φ0.1～4.5cm）含む。焼土粒（φ0.5～3.0cm）少量含む。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。

第259図　SK28・29実測図（1/30）



第260図　時期不明土坑出土遺物実測図（1/4）

壁面　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

SK27（第 258・260 図／第 38 表／ＰＬ 34）

位置　１－80 区Ｔ－７　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　不整円形を呈する。規模は長軸 204㎝、短軸 196㎝、深さ 60㎝。　**主軸方位**　Ｎ－20°－Ｅ　**壁面**　階段状に外傾して立ち上がる。　**底面**　中央に向かって緩やかに傾斜する。　**遺物**　土師器台付甕の高台部が１点出土し、図示した。　**備考**　出土遺物は出土状況から混入の可能性が考えられるため、帰属時期は不明とした。

SK28（第 259 図）

位置　２－71 区Ｃ－５　**重複関係**　SI03 と重複し、本遺構の方が古い。　**遺存状態**　SI03 に東壁を壊される。　**覆土**　黒色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　楕円形を呈する。規模は長軸 68㎝以上、短軸 56㎝、深さ 9㎝。　**主軸方位**　Ｎ－69°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　東に向かって傾斜する。　**遺物**　土師器片が３点出土したが、図示しなかった。　**備考**　なし。

SK29（第 259 図／ＰＬ 32）

位置　１－80 区Ｐ－９　**重複関係**　SI04 と重複し、本遺構の方が新しい。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　隅丸長方形を呈する。規模は長軸 108㎝、短軸 46㎝、深さ 15㎝。　**主軸方位**　Ｎ－５°－Ｗ　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　なし。

（２）ピット（第 261 図／第 36・38 表／ＰＬ 34）

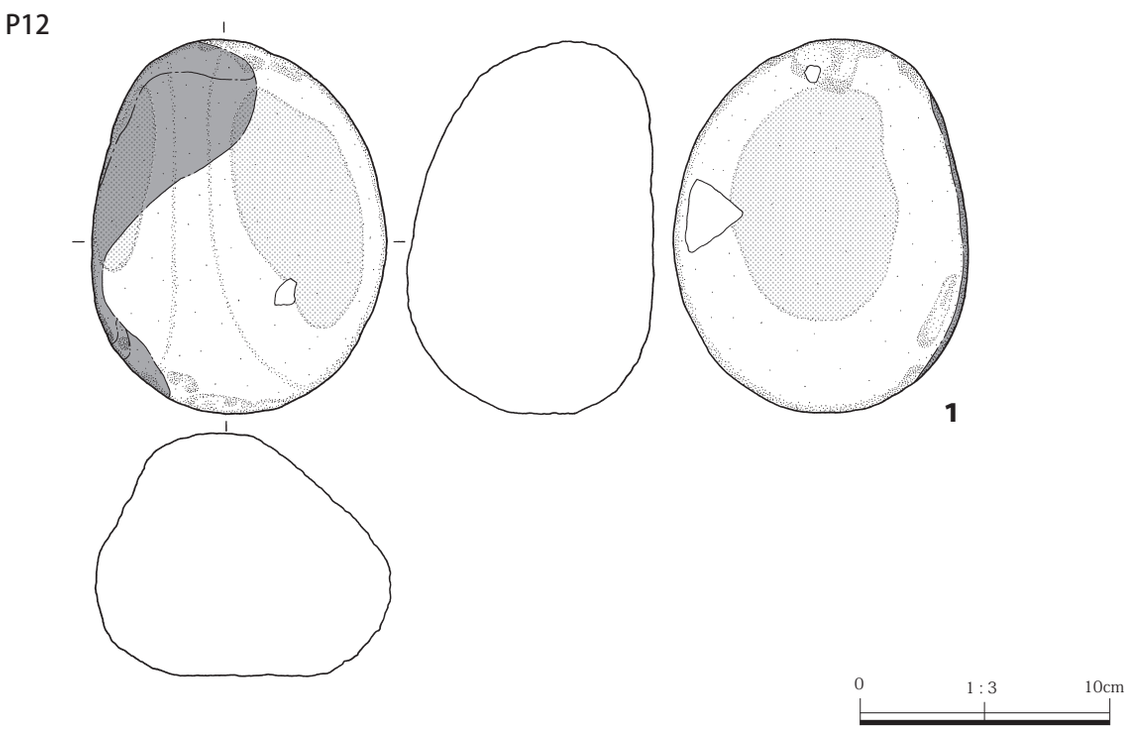
今回の発掘調査では、ピットは 27 基確認された。そのほとんどは調査区南部、とりわけ黒色土範囲周辺に

集中している。建物の柱穴と考えられるものは確認されなかった。Ｐ 12・17 以外には遺物を出土するものは見られなかった。全てのピットの平面形や規模などの情報は、第 36 表に記載した。

第 36 表　山根Ⅳ遺跡 II ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
P01	2-61 区Ｂ -12	円形	60	(44)	10	A	
P02	1-70 区Ｓ -13	円形	(48)	38	12	A	
P03	1-70 区Ｔ -16	円形	80	70	37	A	
P04	1-70 区Ｔ -16	円形	38	32	57	A	
P05	2-71 区Ｄ - 6	円形	30	26	26	A	
P06	2-71 区Ｄ - 4	不整楕円形	48	26	17	A	
P07	2-71 区Ｃ - 4	不整円形	40	34	42	A	
P08	2-71 区Ｂ - 8	円形	26	22	14	A	
P09	2-71 区Ａ - 7	円形	30	20	12	A	
P10	2-71 区Ａ - 8	円形	20	16	16	A	
P11	2-71 区Ａ - 8	不整円形	22	20	18	A	
P12	2-71 区Ａ - 9	楕円形	34	24	17	C	
P13	1-80 区Ｒ - 9	楕円形	30	20	27	B	
P14	1-80 区Ｒ - 9	不整円形	24	20	20	B	
P15	1-80 区Ｑ -10	楕円形	38	22	34	A	
P16	1-80 区Ｒ - 9	円形	30	24	33	B	
P17	1-80 区Ｒ - 9	不整円形	28	24	17	B	
P18	1-80 区Ｒ - 8	隅丸方形	46	40	21	B	
P19	1-80 区Ｒ - 9	円形	38	30	30	B	
P20	1-80 区Ｒ - 8	円形	40	34	29	B	
P21	1-80 区Ｔ - 9	不整楕円形	32	20	37	A	
P22	1-80 区Ｒ - 9	円形	46	40	24	B	
P23	1-80 区Ｒ - 9	楕円形	28	20	18	B	
P24	1-80 区Ｒ - 9	円形	30	28	35	B	
P25	1-80 区Ｒ - 8	隅丸長方形	40	30	23	B	
P26	1-80 区Ｒ - 8	不整円形	30	(20)	13	B	
P27	1-80 区Ｒ - 8	楕円形	38	20	22	B	

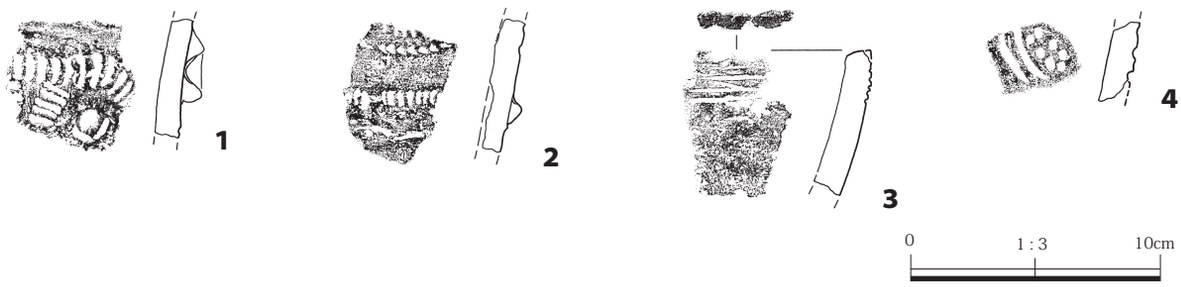
※ A：黒褐色土　B：オリーブ黒色土　C：暗灰色



第261図　ピット出土遺物実測図（1/3）

第５節　遺構外出土遺物（第 262 図／第 38 表／ＰＬ 34）

ここでは、調査区表土および確認面出土遺物を掲載する。遺構外出土遺物は、縄文時代中期の土器片、平安時代の土師器・須恵器・中近世陶磁器などが出土している。これらの遺物から、口縁部など遺存状態の良いものを選んで図示した。



第262図　遺構外出土遺物実測図（1/3）

第５章　まとめ

今回発掘調査を行なった山根Ⅳ遺跡Ⅱでは、縄文時代の竪穴状遺構６基、土坑５基、平安時代の竪穴住居跡４軒、竪穴状遺構３基、遺物集中２ヵ所、時期不明の土坑 24 基、ピット 27 基が確認された。

縄文時代の遺構は、竪穴状遺構が６基（SX01 ～ SX06）検出されたが、いずれも出土遺物から中期中葉と考えられる。炉や踏み締りが認められず､形状や立ち上がりも不明瞭であったため住居として扱わなかったが、林地区の上原Ⅱ遺跡でも同様の遺構が確認されており、立馬Ⅱ遺跡や楡木Ⅱ遺跡でも形状やピットの並びが不明瞭な住居が見られる。住居として使用されていた可能性は完全に否定はできないが、周辺では焼土も検出されておらず、屋外炉と呼べるような遺構も検出されなかった。これらの状況から、やはり住居と呼ぶことは控えたい。出土遺物は新巻・焼町系の土器が主体で、勝坂式土器も客体的に出土する。以上から、縄文遺跡としての存続期間は中期前半から中期中葉であると考えられる。信州系の土器が主体的に出土する当遺跡は、浅間山を中心とした長野県域と当地域との交流を示す好例である。

平安時代の竪穴住居跡は３軒が確認された。SI02 は調査区外に続いており、集落域はさらに広がる可能性がある。コの字状口縁甕を伴うものが SI01・SI03・SI04、羽釜を伴うものが SI02 である。よって SI02 はやや新しく 10 世紀前半、その他の住居は９世紀後半頃と推定できる。カマドは SI01・SI02 が東カマド、SI04 が北カマドである。SI03 はカマドなどの施設を伴わず壁や床面も不明瞭であるため、住居ではないと考えられる。規模はいずれも３m台～ 4.5 m程度と中小規模である。軒数・規模ともに小規模であるため、当地域を包括する拠点集落ではなく一般的な集落であったと考えられる。

第 37 表　山根Ⅳ遺跡Ⅱ平安時代住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模（cm・㎡）				主柱配置	カマド		周溝	付帯施設	遺物					時期
		主軸	副軸	壁高	面積		位置	構築方法			灰釉	墨書	羽釜	鉄製品	鉄滓	
SI01	N-80° -E	340	376	40	10.69	－	東壁	石組・土で造成	－	－	－	－	－	－	－	９世紀後半
SI02	N-84° -E	(315)	456	58	12.88	－	東壁	石組・土で造成	－	－	－	－	○	○	○	10 世紀前半
SI03	N-73° -E	311	389	34	7.74	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	９世紀後半
SI04	N-38° -E	328	380	40	9.38	－	北壁	石組・土で造成	－	貯蔵穴	－	－	－	－	－	９世紀後半

第 38 表　山根IV遺跡 II 出土遺物観察表

SX03 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量(器高／口径／底径)(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調(外面／内面)	備考	
220- 1	—	縄文土器・深鉢	(2.8) ／—／—	隆帯を貼付後、隆帯の上下に刻み文様を施す。中期前半（勝坂Ⅰ式)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SX03
220- 2	33	縄文土器・深鉢	(4.6) ／—／—	横位隆帯をめぐらせ、刻みを施す。外面横位ナデ。中期前半（勝坂Ⅱ式)。	良好	砂粒	赤褐／褐	破片資料（口縁部～体部）	SX03
220- 3	33	縄文土器・深鉢	(3.5) ／—／—	沈線により三角形や直線の文様を描く。地文は単節 RL 縄文を施文する。中期中葉(新巻類型)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SX03
220- 4	33	縄文土器・深鉢	(3.6) ／—／—	平行する沈線を 3 条施す。単節 RL 縄文を施文する。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒・角閃石	褐／灰黄褐	破片資料（体部）	SX03
220- 5	33	縄文土器・深鉢	(3.5) ／—／—	隆帯を貼付し、沈線による直線をめぐらす。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒・角閃石	褐	破片資料（体部）	SX03
220- 6	—	縄文土器・深鉢	(3.9) ／—／—	隆帯を貼付し、隆帯と平行に沈線を施す。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒・角閃石	褐／にぶい黄褐	破片資料（体部）	SX03
220- 7	—	縄文土器・深鉢	(3.1) ／—／—	隆帯を貼付し、周辺に平行する沈線文を施す。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒・角閃石	褐	破片資料（体部）	SX03
220- 8	33	縄文土器・深鉢	(3.5) ／—／—	隆帯を貼付し、周辺に平行する沈線文を施す。外面沈線と同方向にナデ。中期中葉(新巻類型)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SX03
220- 9	33	縄文土器・深鉢	(2.4) ／—／—	隆帯を貼付し、周辺に沈線文を施す。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SX03
220-10	33	縄文土器・深鉢	(6.0) ／—／—	コイル状の隆帯文を貼付する。地文として沈線文、刺突文を施す。隆帯の接合痕跡が明瞭に残る。中期中葉（焼町土器)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SX03
220-11	33	縄文土器・深鉢	(6.1) ／—／—	隆帯を貼付し、周囲に平行沈線文を施す。型式不明。	良好	砂粒・角閃石	にぶい黄褐／にぶい褐	破片資料（体部）	SX03
220-12	33	縄文土器・深鉢	(4.7) ／—／—	つまみ状の突起を貼付し、隆起線、沈線による文様を施す。中期中葉（焼町土器)。	良好	砂粒	にぶい赤褐	破片資料（体部）	SX03

SX04 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量(器高／口径／底径)(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調(外面／内面)	備考	
222- 1	33	縄文土器・深鉢	(2.9) ／—／—	隆帯を貼付後、隆帯の上下に刻み文様を施す。中期前半（勝坂Ⅰ式)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SX04P2
222- 2	—	縄文土器・深鉢	(2.4) ／—／—	隆帯を貼付後刻み文様を施す。中期前半（勝坂Ⅰ式)。	良好	砂粒	にぶい黄褐／褐	破片資料（体部）	SX04

SX05 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量(器高／口径／底径)(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調(外面／内面)	備考	
225- 1	33	縄文土器・深鉢	(3.4) ／—／—	直線および曲線の沈線が施される。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒・角閃石	黒褐／褐	破片資料（体部）	SX05

縄文時代土坑出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量(器高／口径／底径)(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調(外面／内面)	備考	
228- 1	33	縄文土器・深鉢	(4.3) ／—／—	隆帯貼付後に連続爪形文を施す。中期中葉（新巻類型)。	良好	砂粒	褐	破片資料（体部）	SK06
228- 2	33	縄文土器・深鉢	(5.2) ／—／—	コイル状の隆帯を貼付し、立体的な曲隆線文、沈線文を施す。中期中葉（焼町土器)。	良好	砂粒	赤褐／褐	破片資料（体部）	SK17
228- 3	33	縄文土器・深鉢	(3.5) ／—／—	外面に平行沈線を施文。中期中葉（焼町土器)。	良好	砂粒	黒褐	破片資料（体部）	SK17
228- 4	33	縄文土器・深鉢	(6.9) ／—／—	外面に平行沈線を施文。沈線と同方向にナデ。中期中葉（焼町土器)。	良好	砂粒	にぶい赤褐／褐	破片資料（体部）	SK17
228- 5	33	縄文土器・深鉢	(2.9) ／—／—	隆帯を貼付し立体的な曲隆線文、沈線文を施す。中期中葉（焼町土器)。	良好	砂粒	にぶい赤褐／にぶい褐	破片資料（体部）	SK17
228- 6	33	礫石器類・磨石	長 9.5 ／幅 8.0 ／厚 7.2	重量 758 g。複数の面が磨かれ、灰黄褐色の平滑面が露出する。	—	安山岩	—	完存。	SK17

228- 7	33	礫石器類・砥石	長（10.3）／幅 3.1 ／厚 3.0	重量 163 g。四面とも磨かれており、平滑な面となっている。両端は欠損する。	－	安山岩	－	80％程度残存か。	SK17

SI01 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
231- 1	33	土師器・甕	（4.7）／－／－	コの字状口縁甕か。口縁部緩く外反して立ち上がる。口縁部内外横位ナデ。内面肩部横位ハケメ。	酸化焔・良好	褐色粒・砂粒	にぶい黄橙	口縁部～肩部 10％残存。	SI01
231- 2	33	礫石器類・磨石	長 9.8 ／幅 3.9 ／厚 2.6	二等辺三角状の面を四面持つ。四面とも摩擦が加えられており、摩擦により緩くへこむ。重量 166g。	－	安山岩	－	完存。	SI01

SI02 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
234- 1	33	須恵器・羽釜	（9.5）／＜ 20.0 ＞／－	月夜野型羽釜。外面縦位ヘラケズリ。外面口縁部・内面横位ナデ。内外面指頭圧痕あり。鍔部断面三角形。胎土に含まれる砂粒は粗い。	酸化焔・良好	石英・砂粒	にぶい黄橙／にぶい黄褐	口縁部～体部 15％残存。	SI02
234- 2	33	須恵器・羽釜	（6.0）／－／－	外面縦位ヘラケズリ。鍔部の貼付痕が明瞭。口縁部内外横位ナデ。鍔部断面三角形。内面指ナデ、指頭圧痕。	酸化焔・良好	石英・砂粒	にぶい黄褐／褐	破片資料（口縁部）	SI02
234- 3	33	須恵器・羽釜	（4.2）／－／－	口縁部内外横位ナデ。鍔下欠損。口縁部ほぼ直立し、端部は平坦に仕上げられる。外面縦位ヘラケズリ。外面指頭圧痕。	酸化焔・良好	石英・砂粒	にぶい黄橙／にぶい橙	破片資料（口縁部）	SI02
234- 4	33	土師器・椀	（2.4）／－／ 8.0	足高高台付椀か。高台貼付後周辺をナデ調整。	酸化焔・良好	褐色粒・白色粒	褐	底部～高台部 40％残存。	SI02
234- 5	33	礫石器類・磨石	長 9.9 ／幅 3.8 ／厚 3.2	重量 189 g。全面よく磨かれ滑らか。両端部のくぼみは敲打痕か。	－	安山岩	－	完存。	SI02
234- 6	33	鉄製品・刀子	長（7.8）／幅 1.7 ／厚 0.3	重量 15 g。両端部欠損。刀身は 7 割程度が残存か。	－	－	－	80％程度残存か。	SI02

SI03 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
236- 1	33	土師器・甕	（3.8）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部内外横位ナデ。外面頸部横位ヘラケズリ。外面指頭圧痕。	酸化焔・良好	白色粒	にぶい褐	破片資料（口縁部）	SI03
236- 2	33	土師質土器・椀	（1.6）／－／＜ 9.0 ＞	底部回転糸切り後高台貼付。ロクロ整形。底部上位は欠損。	酸化焔・良好	褐色粒	にぶい黄褐	底部～高台部 20％残存。	SI03
236- 3	33	土師質土器・杯か	（2.2）／－／－	黒色土器。内面にはミガキが施され、黒色処理される。ロクロ整形。外面ロクロナデ。	酸化焔・良好	白色粒	にぶい黄橙／黒	破片資料（口縁部）	SI03

SI04 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
240- 1	33	土師器・甕	（14.3）／＜ 20.2 ＞／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は強めに外反し、下位はやや内傾して立ち上がる。くずれたコの字状を呈する。口縁部内外ともに横位ナデ。内外面とも指頭圧痕あり。外面縦位・斜位ヘラケズリ。	酸化焔・良好	白色粒・褐色粒	橙	口縁部 40％残存。	SI04
240- 2	33	土師器・甕	（6.7）／＜ 21.0 ＞／－	コの字状口縁甕。内外面ともに横位ナデ。口縁部上位は強く外反して立ち上がり、下位はほぼ直立する。外面横位ヘラケズリ。内外面指頭圧痕。	酸化焔・良好	白色粒	橙／にぶい黄橙	口縁部 20％残存。	SI04 カマド・SI04
240- 3	33	土師器・甕	（5.0）／＜ 21.0 ＞／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は強く外反して立ち上がり、下位はほぼ直立。口縁部下位から体部横位ヘラケズリ。口縁部内外面横位ナデ。内外面指頭圧痕。体部内面ヘラナデ。	酸化焔・良好	白色粒・砂粒	褐／にぶい褐	口縁部 25％残存。	SI04P1
240- 4	33	土師器・甕	（10.85）／ 19.6 ／－	口縁部は下位から上位へ緩く外反して立ち上がる。内外面とも横位ナデ。外面体部横位ヘラケズリ。粘土紐の接合痕跡が明瞭に残る。指頭圧痕あり。	酸化焔・良好	白色粒・角閃石	橙	口縁部 20％残存。	SI04
240- 5	34	土師器・甕	（6.1）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は緩く外反し、下位はやや内傾。くずれたコの字を呈する。体部外面横位ヘラケズリ。体部外面斜位ナデ。内外面指頭圧痕。	酸化焔・良好	白色粒・褐色粒	にぶい褐／にぶい黄褐	破片資料（口縁部）	SI04
240- 6	34	土師器・甕	（6.4）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は緩く外反し、下位はほぼ直立。くずれたコの字状を呈する。口縁部内外横位ナデ。肩部内面横位ハケメ。肩部外面横位ヘラケズリ。	酸化焔・良好	砂粒・褐色粒	にぶい褐	口縁部～肩部 10％残存。	SI04
240- 7	34	土師器・甕	（4.1）／－／－	口縁部上位はやや緩く外反し、下位はほぼ直立して立ち上がる。口縁部内外面ともに横位ナデ。体部外面ヘラケズリ。粘土紐の接合痕が残る。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐	口縁部 10％残存。	SI04
240- 8	34	土師器・甕	（3.3）／－／－	口縁部上位はやや強めに外反し、下位はわずかに外傾して立ち上がる。口縁部内外面ともに横位ナデ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい黄橙	破片資料（口縁部）	SI04
240- 9	－	須恵器・杯か椀	（2.9）／＜ 16.2 ＞／－	ロクロ整形。内外面ともにロクロナデ。外面に斜位の擦痕あり。	還元焔・良好	白色粒	灰白／灰	破片資料（口縁部）	SI04

240-10	—	須恵器・杯か椀	(3.7) ／－／－	ロクロ整形。内外面ともにロクロナデ。内面ロクロ痕明瞭。	還元焔・良好	砂粒	灰白	破片資料（口縁部～体部）	SI04
240-11	—	須恵器・杯か椀	(3.2) ／－／－	ロクロ整形。内外面ともにロクロナデで、外面のロクロ痕は顕著。	還元焔・良好	砂粒・白色粒	灰白	破片資料（口縁部～体部）	SI04 カマド
240-12	—	須恵器・杯か椀	(3.9) ／－／－	ロクロ整形。内外面ともにロクロナデ。	還元焔・良好	砂粒	灰白	破片資料（口縁部～体部）	SI04

SX07 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
242- 1	34	土師器・甕	(4.7) ／－／－	口縁部は緩く外反し立ち上がる。内面斜位ナデ。外面横位ナデ。体部横位ヘラケズリ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐／明褐	破片資料（口縁部）	SX07
242- 2	34	土師器・甕	(6.1) ／＜ 22.0 ＞／－	コの字状口縁甕。口縁部の外反はやや緩く、下位はほぼ直立する。くずれたコの字状を呈する。内外とも口縁部から頸部にかけて横位ナデ。体部横位ヘラケズリ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい黄橙	口縁部 20％残存。	SU02
242- 3	34	土師器・台付甕	(2.6) ／－／－	内外面ともに横位ナデ。内外面指頭圧痕あり。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐／明褐	高台部 20％残存。	SX07
242- 4	34	土師器・台付甕	(2.8) ／－／ 3.8	台付甕の底部か。外面縦位ヘラケズリ。外面横位ナデ。内面斜位ナデ。内面黒色。外面は損傷激しい。内面はヘラナデで調整され、指頭圧痕が残る。	酸化焔・良好	砂粒	褐	底部 60％残存。	SU02
242- 5	34	土師器・台付甕	(2.7) ／－／＜ 5.4 ＞	高台貼付け後に周辺をナデで調整。高台部貼付痕が残る。内面指頭圧痕。	酸化焔・良好	砂粒	明赤褐／にぶい黄褐	高台部～底部 20％残存。	SX07
242- 6	34	須恵器・椀	(2.3) ／－／＜ 8.0 ＞	ロクロ整形。底部回転糸切り後に高台を貼付し、周辺をナデ調整する。内外面ロクロナデ。	還元焔・良好	褐色粒	灰	底部 20％残存。	SX07
242- 7	—	須恵器・杯か椀	(3.1) ／－／－	ロクロ整形。内外面ロクロナデ。	還元焔・良好	黒色粒	灰	破片資料（口縁部）	SX07
242- 8	34	須恵器・杯	5.3 ／ 13.4 ／ 6.4	ロクロ整形。底部右回転糸切り痕。内外面ともにロクロナデ。胎土に含まれる砂粒は多く粗い。	還元焔・良好	砂礫	にぶい黄	口縁部～底部 60％残存。（底部完存）	SU02
242- 9	34	須恵器・椀	(3.1) ／－／＜ 8.0 ＞	ロクロ整形。内外ともにロクロナデ。底部切り離し後に高台貼付。高台部は胎土が異なり、砂粒量が多めでやや粗い。	還元焔・良好	砂粒	にぶい黄橙	底部 40％残存。	SU02

SX08 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
243- 1	34	須恵器・鉢	(2.7) ／－／＜ 15.1 ＞	外面底部付近に横位ナデを施す。内面底部はナデ調整され指頭圧痕が残る。	還元焔・不良	白色粒・砂粒	黄灰	底部 30％残存。	SX08

SX09 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
245- 1	34	土師器・甕	(5.3) ／－／－	コの字状口縁甕。口縁上位はやや外反し下位はほぼ直立する。口縁部内外とも横位ナデ。体部横位ヘラケズリ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐	破片資料（口縁部）	SX09
245- 2	—	土師器・甕	(2.6) ／－／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は強めに外反し、下位はほぼ直立する。口縁部内外面ともに横位ナデ。内面口縁部上位はユビナデで調整。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい橙	破片資料（口縁部）	SX09
245- 3	—	須恵器・椀	(3.1) ／－／＜ 8.0 ＞	ロクロ整形。内面は斜位ナデ。外面はロクロナデ。高台貼付後周辺をナデ調整する。胎土の砂粒は多く粗い。	還元焔・良好	砂粒	灰黄／にぶい黄	体部下位～高台部 20％残存。	SX09
245- 4	—	須恵器・杯か椀	(4.1) ／＜ 15.0 ＞／－	ロクロ整形。外面ロクロナデだがロクロ痕跡は弱い。	還元焔・良好	砂粒	灰黄／灰白	破片資料（口縁部）	SX09
245- 5	34	須恵器・長頸瓶	(7.3) ／－／－	ロクロ整形。内外面ともにロクロナデ。体部と接合部分で剥離欠損する。	還元焔・不良	砂粒・繊維	灰白	頸部 50％残存。	SX09

SX10 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）(cm)	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考	
247- 1	34	土師器・甕	(4.6) ／－／－	口縁部緩く外反して立ち上がる。内外面ともに横位ナデ。体部横位ヘラケズリ。器壁は比較的厚い。	酸化焔・良好	白色粒	褐／灰黄褐	破片資料（口縁部）	SX10
247- 2	34	土師器・甕	(4.6) ／－／－	コの字状口縁甕。口縁強く外反し、下位との間に明瞭な稜を持つ。下位はほぼ直立。内外ともに横位ナデ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐／橙	破片資料（口縁部）	SX10
247- 3	34	須恵器・瓶	(3.2) ／－／－	ロクロ整形。内外ともにロクロナデ。ロクロ痕は弱く不明瞭。	還元焔・良好	黒色粒	灰	破片資料（口縁部）	SX10

SU01 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
249- 1	34	土師器・甕	（4.5）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は強めに外反し、下位はわずかに内傾する。口縁部内外面ともに横位ナデ。外面指頭圧痕あり。	酸化焔・良好	砂粒	明赤褐	破片資料（口縁部） SU01

SU02 出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
251- 1	34	土師器・甕	（4.6）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部上位は強めに外反し、下位はほぼ直立する。口縁部内外面ともに横位ナデ。肩部横位ヘラケズリ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐	破片資料（口縁部） SU02
251- 2	34	土師器・椀	（3.7）／－／（8.0）	内面黒斑。摩耗激しい。底部糸切り後高台を貼付し、周辺を横位ナデで調整。	酸化焔・良好	砂粒・褐色粒	橙／黒褐	底部～高台部 90％残存。 SU02
251- 3	34	灰釉陶器・碗	（2.1）／－／ 7.4	ロクロ整形。内外ともにロクロナデ。外面高台部より上部に施釉。内面は体部に釉が残る。重ね焼き痕あり。底部回転糸切り後ナデで調整。施釉は漬け掛けか。	還元焔・良好	黒色粒	灰白	底部 40％残存。 SU02

黒色土範囲出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
254- 1	34	土師器・甕	（5.1）／－／－	口縁部緩く弧状に外反。口縁部内外ともに横位ナデ。外面指頭圧痕。体部外面横位ヘラケズリ。粘土紐接合痕が残る。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい黄褐	口縁部 20％残存。 SU02
254- 2	34	土師器・甕	（6.3）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部緩く外反し、下位はほぼ直立。口縁部外面横位ナデ。内面斜位ナデ。くずれたコの字状を呈する。	酸化焔・良好	砂粒・褐色粒	明赤褐	口縁部 20％残存。 SU02
254- 3	34	土師器・甕	（5.1）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部強く外反し、下位はほぼ直立。内外ともに口縁部から頸部にかけて横位ナデ。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい褐／橙	口縁部 20％残存。 SU02
254- 4	34	土師器・甕	（4.9）／－／－	口縁部緩く弧状に外反。内外ともに横位ナデ。内面口縁上位ヘラナデで調整。	酸化焔・良好	砂粒	明赤褐	破片資料（口縁部） SU02
254- 5	34	土師器・甕	（4.4）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部強く外反し、下位はほぼ直立。内外ともに口縁部から頸部にかけて横位ナデ。内面指頭圧痕。粘土紐接合痕が明瞭。	酸化焔・良好	砂粒・褐色粒	黒褐／橙	口縁部 20％残存。 黒色土範囲
254- 6	34	土師器・甕	（3.4）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部強く外反し、下位はほぼ直立。口縁部内外とも横位ナデ。器壁は比較的厚め。	酸化焔・良好	砂粒	にぶい橙／にぶい褐	口縁部 20％残存。 黒色土範囲
254- 7	34	土師器・甕	（2.6）／－／－	口縁部強めに外反。口縁部内外ともに横位ナデ。粘土紐の接合跡明瞭。	酸化焔・良好	砂粒・角閃石	にぶい褐／橙	口縁部 20％残存。 黒色土範囲
254- 8	－	土師器・甕	（3.4）／－／－	コの字状口縁甕。口縁部強めに外反。口縁部内外面ともに横位ナデ。	酸化焔・良好	砂粒	橙	破片資料（口縁部） 黒色土範囲
254- 9	34	土師器・甕	（4.6）／－／－	コの字状口縁甕。口縁強く外反し、下位はほぼ直立する。内外ともに口縁上位横位ナデ。器壁は比較的厚い。外面指頭圧痕。	酸化焔・良好	白色粒	灰褐	破片資料（口縁部） 黒色土範囲

時期不明土坑出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
260- 1	34	土師器・台付甕	（2.4）／－／＜ 9.0 ＞	外面指頭圧痕あり。内外ともに横位ナデ。	酸化焔・良好	白色粒	橙	高台部 20％残存。 SK27

ピット出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
261- 1	34	礫石器類・磨石	長 14.8 ／幅 11.6 ／厚 9.8	重量 2343 ｇ。表面は磨られるが石質のためか粗い。表面の黒ずみは被熱痕か。	－	安山岩	－	完存。 P12

遺構外出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
262- 1	34	縄文土器・深鉢	（4.7）／－／－	隆帯を貼付後、隆帯上に連続爪形文を施す。内面ナデ。中期前半（勝坂Ⅰ式）。	良好	砂粒	にぶい赤褐／黒褐	破片資料（体部） 確認面
262- 2	34	縄文土器・深鉢	（5.2）／－／－	隆帯を貼付後、隆帯上に連続爪形文を施す。中期前半（勝坂Ⅰ式）。	良好	砂粒	にぶい黄褐／褐	破片資料（体部） 確認面
262- 3	34	縄文土器・深鉢	（5.7）／－／－	口縁付近を横位沈線、斜位沈線で施文。口縁部から体部横位ナデ。口唇部にはミガキを施す。中期前半（勝坂Ⅰ式）。	良好	砂粒・金雲母	にぶい橙	破片資料（口縁部） 表土
262- 4	34	縄文土器・深鉢	（3.0）／－／－	円形の刺突文を施し周囲に沈線をめぐらす。中期中葉（焼町土器）。	良好	砂粒	赤褐	破片資料（体部） 確認面